

「個を輝かせ、他と協働し、新たな価値を創出するグローバルイノベーター」を育成するために！

平成 28 年度

KTC授業アンケート調査結果

[報告書 **抜粋**]

金沢工業高等専門学校

平成28年度KTC授業アンケート調査結果について

学校の教育プログラムの内容や効果は、さまざまな立場の人々にとって重要なものです。学生、保護者、雇用者、社会全般、そして教職員は、教育プロセスの実践や結果に「利害関係」を持った「関係者」です。学生は必ずしも自分で自由に選んだとは限らない活動、すなわち学校が選んで用意した活動に、何年にもわたって多くの日々と時間を費やすことになるわけですから、学生にとって「関係者」は特に大きな存在となります。

学生はその教育の結果が、時間と労力を投資するに値するかどうかすぐにはわからないかもしれません。大人として社会経験を何年も積んで初めて、教育の価値を高く評価できるようになるでしょう。しかし学生は、短期間の学習で得られる成果をよく見抜くため、学生自身の感情や反応は特に学習プロセスとそのプロセスの結果の有効性を見る大切な機会になります。そして学生の学習経験に対する反応は、プログラムの有効性を強調する前向きな経験にも、プログラムを妨害する後ろ向きの経験にもつながることになるのです。

知識そのものには、退屈とか面白いということはないのかもしれませんが、つまらないか面白いかは、学習する者が修得した知識や洞察力、技術によって決まるのではないのでしょうか。したがって、学生の興味を持続させるためには、自身の進歩や成長を学生に実感させることが重要な要素の一つとなります。

以上のことから、授業アンケートは学校が学生に提供する学習活動や経験の価値と有効性を評価するための非常に重要な手段になります。この授業アンケートは現在の結果を精査する一手段となっており、教育プログラムを改善する試みがなされた際に、結果として生じた変化を追跡することも可能です。

私たちはCDIOスタンダードに基づき、教育プログラムを継続して改善していくために、注意深くこのデータを分析していかなければなりません。2018年から始まる国際高等専門学校に向けて、私たちはこれから頻繁に革新的な授業方法や教材を試すことになるでしょう。アンケート調査結果は、これらの試みに対する結果を観察するうえで特に重要なツールとなります。何より大切なのは、私たちが学生に最善の教育を提供できているのかをこのアンケートによって確認することなのです。

ここにKTC教育評価委員会、教員の方々、学生、そしてこの調査にご協力いただいたすべての方々に感謝を記したいと思います。

平成29年6月

金沢工業高等専門学校
校長 ルイス・バークスデール

The content and effectiveness of a school's educational programs are important to many categories of people. Students, guardians, employers, society at large, as well as faculty and staff all have a stake in the operation and outcomes of the educational process. For students the stake is especially large, since students devote hours of their days over years of their lives to the activities chosen and directed by a school, not necessarily chosen freely by the student.

A student might not know right away whether the educational outcome is worth his or her investment in time and effort. It may take years of experience as an adult in society before the worth of an education can be appreciated. Even so, learners have good insight into at least the near-term outcomes of their studies, and the feelings and reactions of the students themselves provide an especially valuable window on the effectiveness of the learning process and the outcomes of that process. And student reactions to their learning experience feed back into that experience—positive experiences enhancing the effectiveness of a program, and negative ones hindering it.

There may be no knowledge that is inherently boring or interesting—whether something is boring or interesting depends on the knowledge, insights, and skills that a learner has gained. So it is important to structure learning experiences in order to maximize their interest. And an important way to maintain interest is to make sure that students are able to feel that they are making progress, that they are learning and developing.

The course questionnaire data is thus a very important tool for assessing the value and effectiveness of learning activities and experiences that the school offers its students. It provides a way to probe current results, and also enables the tracking of changes as efforts are made to improve the educational program.

We must carefully analyze this data in order to continuously improve our programs under the CDIO Standards. As we prepare for International College of Technology, we will frequently be trying out innovative classroom techniques and course materials. Course questionnaire data will be a particularly important tool for monitoring the outcomes of such experiments. Most important of all, we must monitor this data to ensure that we are giving our students the best possible education.

I would like to express my thanks to the KTC Education Assessment Committee, the faculty, the students, and all who helped with this survey.

June, 2017

Kanazawa Technical College
Lewis Barksdale, President

<1>全体概略

1)調査の目的

本調査は下記に挙げる目的に従って実施した。

- 本調査は、金沢高専の学生から1年間に受けた授業に対する評価と満足度を聞き、属性による違いや過去の回答との比較などから現状を把握することを目的としている。
- 一連の分析によって得られた情報を授業の改善に有効活用し、金沢高専全体の教育改善につなげていくことが最終的な目的となる。
- 調査終了直後に作成した「速報版」は各科目の担当教員が個別に1年間の授業の評価を振り返るためのものであるが、本報告書は全体の傾向を分析し、全体的な改善の方向性を検討するためのものである。

2)調査の概略

調査の概略は下記の通り。

項目	内容		
分析データ件数 対象者		H28年度のべ回答数	H28年度在校生数
	1年生	1,526件	113名
	2年生	1,586件	108名
	3年生	1,222件	94名
	4年生	1,809件	107名
	5年生	1,522件	112名
	全体合計	7,665件	534名
	・最終回収数は7,721件であったが、回答数が10件未満など、一部の科目(11科目、56件)は集計から除外している。		
対象科目	240科目(春・夏学期に実施された科目も含む)		
実施方法	・各授業の最終日に20分程度の記入時間をとって行った。 ・調査票は学生が回収し、教員ではなく学生が事務局に届けるものとした。 ・回答用紙はOMR形式とし、回収後即座に読み込み処理を行った。		
調査主体	学校法人 金沢工業大学		
集計	有限会社 アイ・ポイント		

3)実施スケジュール

H28年度の調査のラフスケジュールは下記の通り。

作業	ステップ	時期	備考
速報版作成作業	調査実施	2月2日～2月21日	各授業の最終日に実施(4年生のキャリアデザインのみ3/3に実施)
	データ入力	2月6日～2月21日	OMRにより処理
	速報版完成(4年生以外)	2月27日	4年生のキャリアデザイン以外のデータは2/21に受け取り
	速報版完成(4年生)	3月7日	4年生のキャリアデザインのデータは3/6に受け取り
最終報告書作成作業	報告書作成	3月31日	

4)集計に関して

1. 加重平均:各調査項目を属性毎に比較するため、加重平均値を多く活用している。選択肢が「そう思う～そう思わない」などのような段階的な選択肢を用いた。加重平均はこれらの選択肢に、+10点、+5点、-5点、-10点を掛けて回答者数で除して算出した。従って、最高点が10点で最低点がマイナス10点となる。無回答は回答者数に含めていない。
2. 学科別の集計は「電気電子工学科」「機械工学科」「グローバル情報学科」の3つの学科で比較を行った。「グローバル情報学科」は新しい呼称であり、3年生から5年生は「グローバル情報工学科」の所属であるが、新しい呼称に統一している。
3. 部会は「一般」「語学」「数理」「T(電気電子工学科)」「M(機械工学科)」「G・J(グローバル情報学科)」の6つとした。
4. 回答数が10件未満などで除外した科目(11科目、56件)は下記となる。

●OP科目:6科目、26名

23074 電気回路Ⅱ(OP)	2名
23094 電気磁気学Ⅱ(OP)	2名
25205 材料力学Ⅰ(OP)	2名
25265 機械設計(OP)	2名
28136 情報処理Ⅲ(OP)	9名
28147 ビジネスシステム(OP)	9名

●回答数が10件未満:5科目、30名

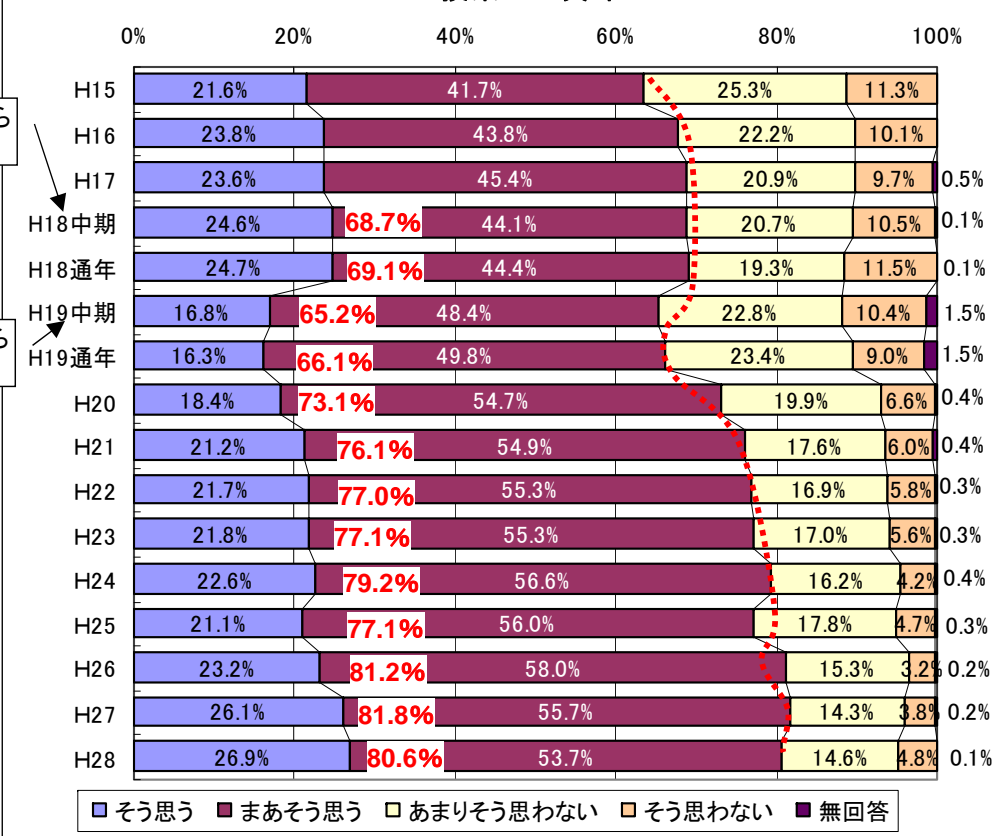
26012 応用物理Ⅰ	8名
29033 計算機システムⅢ	4名
29063 英語作文技法	6名
32111 海外英語研修	4名
22069 数理統計B	8名

<2> 基本的な集計

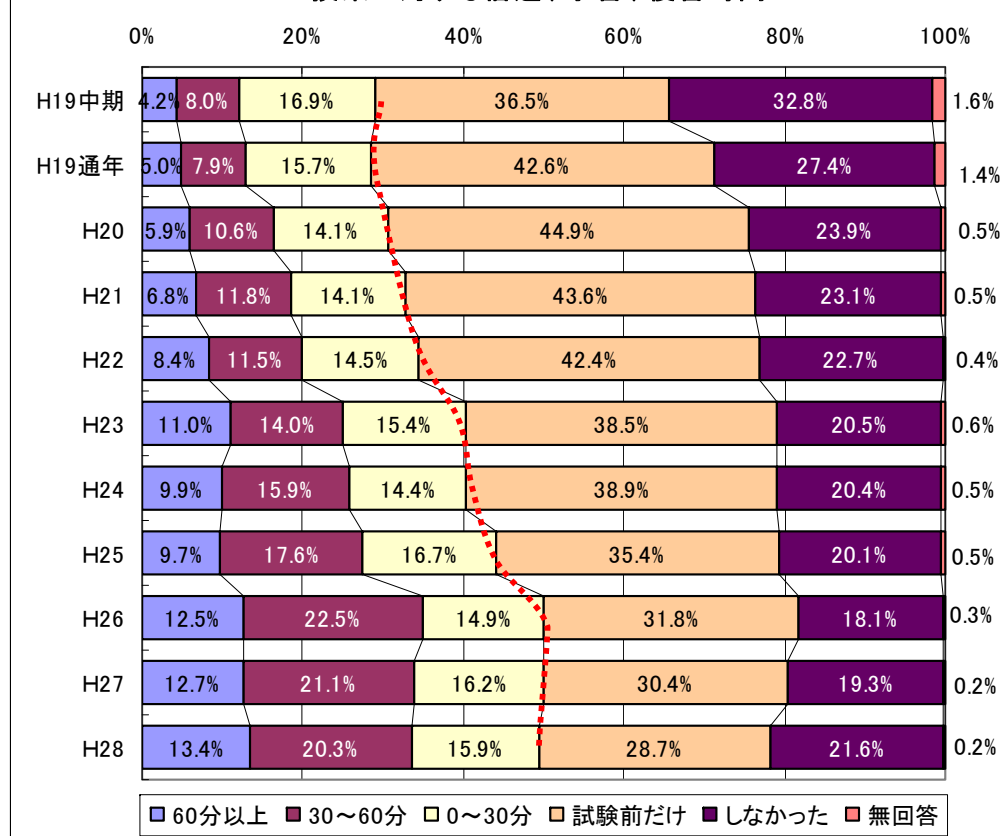
1) 授業への取り組み姿勢

- 「A. 授業への興味(あなたは、この授業に興味を持って受けられたと思いますか?)」では、「そう思う」が26.9%で過去最高となっていた。そして、「まあそう思う」が53.7%となっており、合わせると80.6%であり、前回より1.2ポイント、前々回より0.6ポイント減少していた。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間(この授業に対し宿題を含めて、どの程度予習・復習しましたか?)」に関しては、「60分以上」が13.4%で過去最高となり、「30～60分」が20.3%、「0～30分」が15.9%、「試験前だけ」が28.7%であり、「しなかった」が21.6%となっていた。
- 以前と比較すると、「60分以上」は過去最高、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計は49.6%で、ここ3年間はほぼ横這いとなり、大きな変化は見られなかった。ただし、「しなかった」がH26から増加を続けており、今回は前回は2.3ポイント上回って、H23以降で最も多くなっている点が気になった。

■ A. 授業への興味



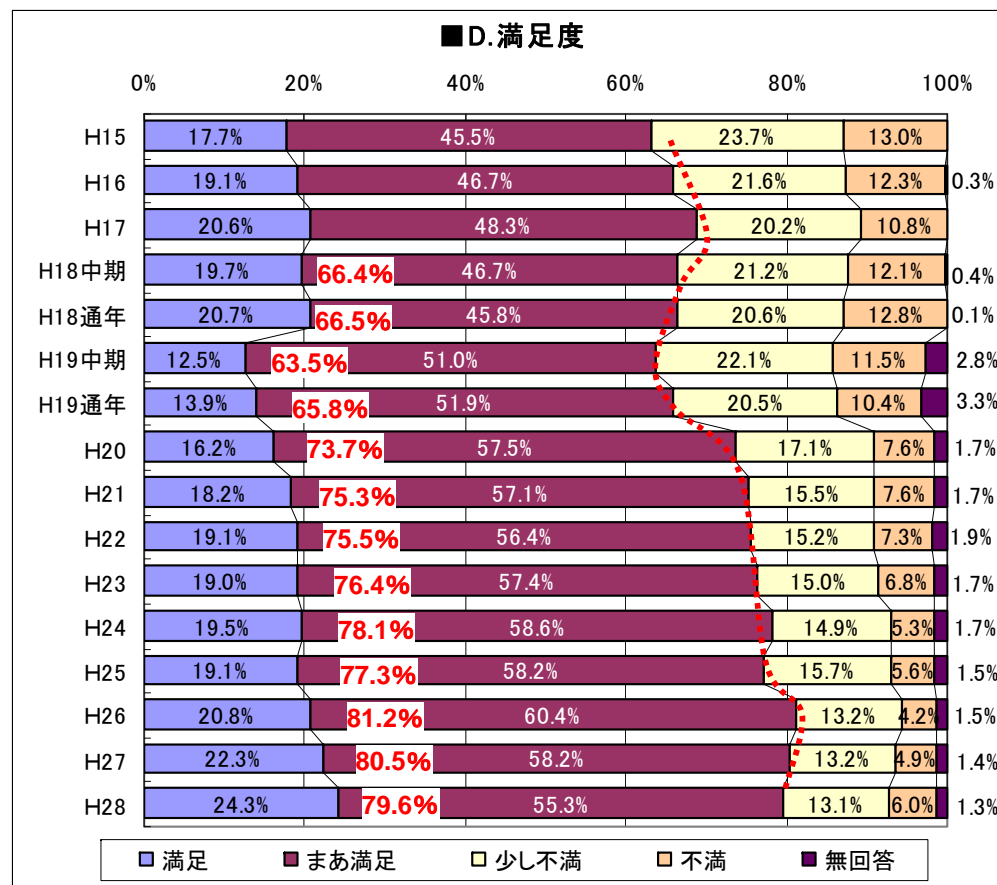
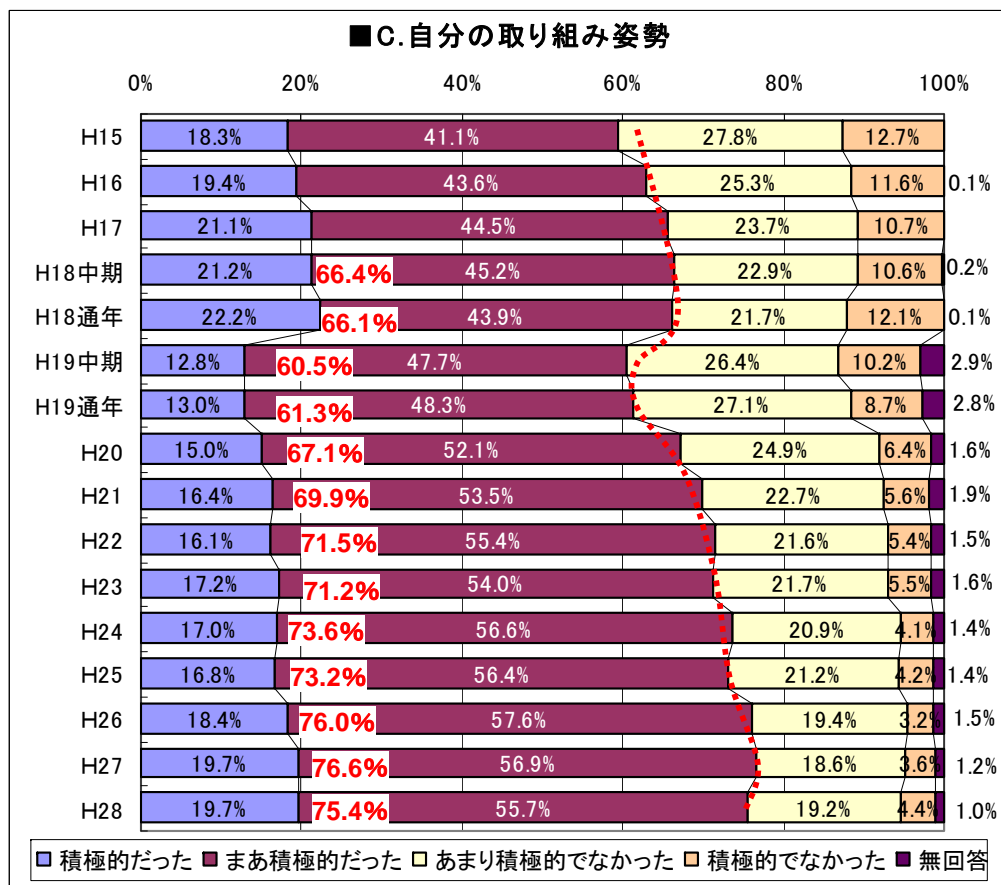
■ B. 授業に対する宿題、予習、復習時間



H18中期から
無記名化

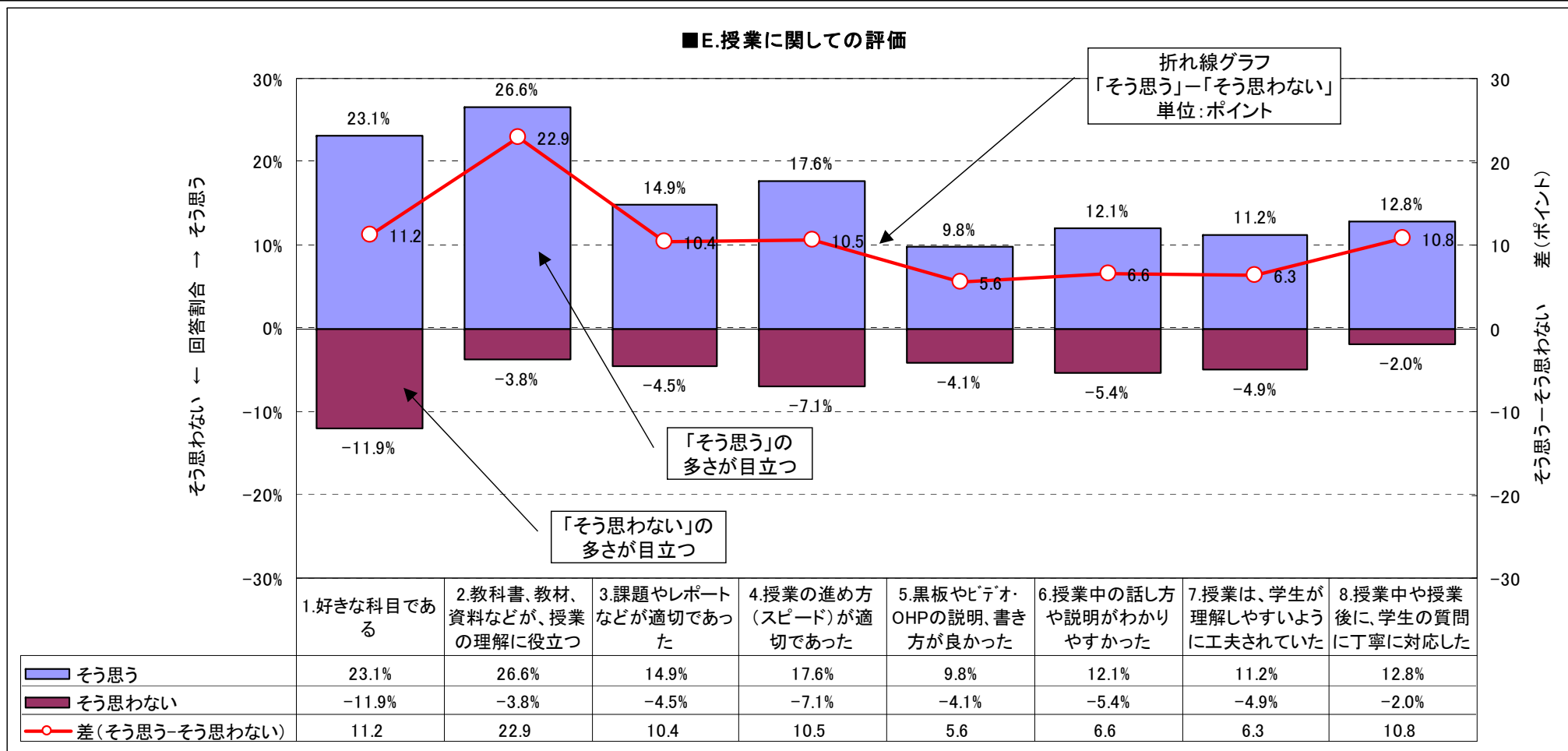
H19中期から
調査票変更

- 「C. 自分の取り組み姿勢(あなたは、この授業に対して積極的に取り組みましたか?)」では、「積極的だった」が19.7%で前回と同じで高い状態あり、「まあ積極的だった」が55.7%であった。合わせると75.4%であり、前回は1.2ポイント、前々回を0.6ポイント下回っていた。変化は大きくはないが積極性はわずかに低下して、消極的な意見が23.6%となっていた。
- 「D. 満足度(あなたはこの授業に満足していますか?)」では、「満足」が24.3%であり、前回は2.0ポイント上回って過去最高となった。しかし、「まあ満足」の55.3%と合わせた肯定的な意見は79.6%となり、前回は0.9ポイント、前々回を1.6ポイント下回って、これまでに3番目の満足度の高さとなっていた。そして、不満を感じているという意見は合計で19.1%であった。



2) 授業に関する評価

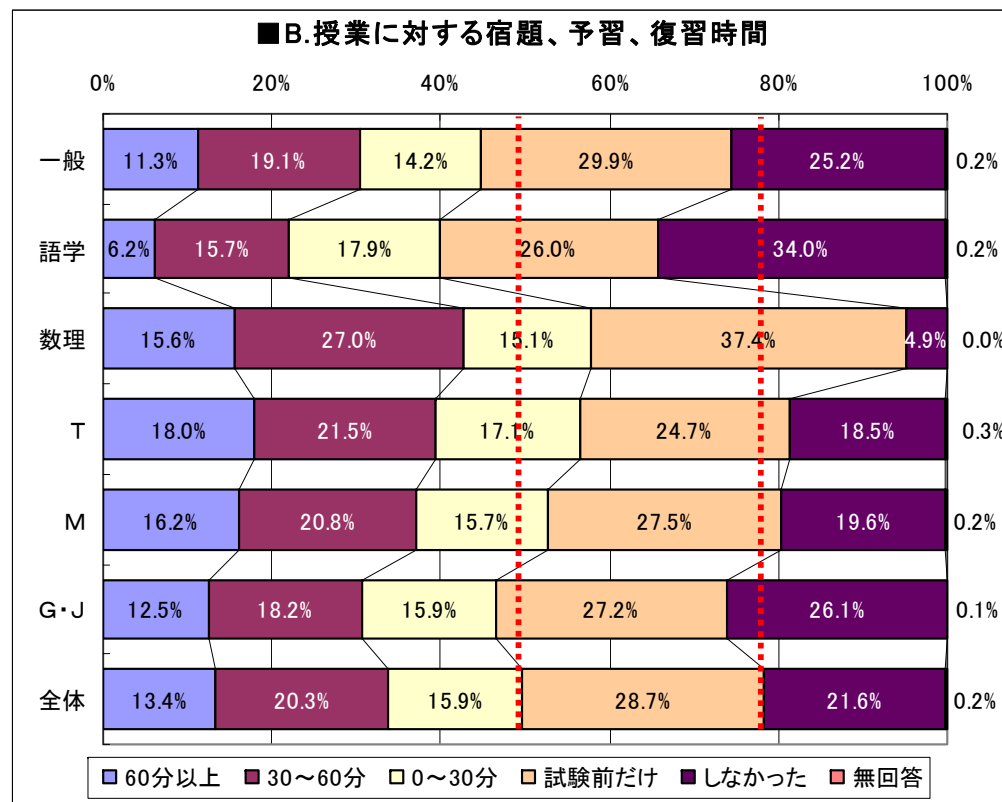
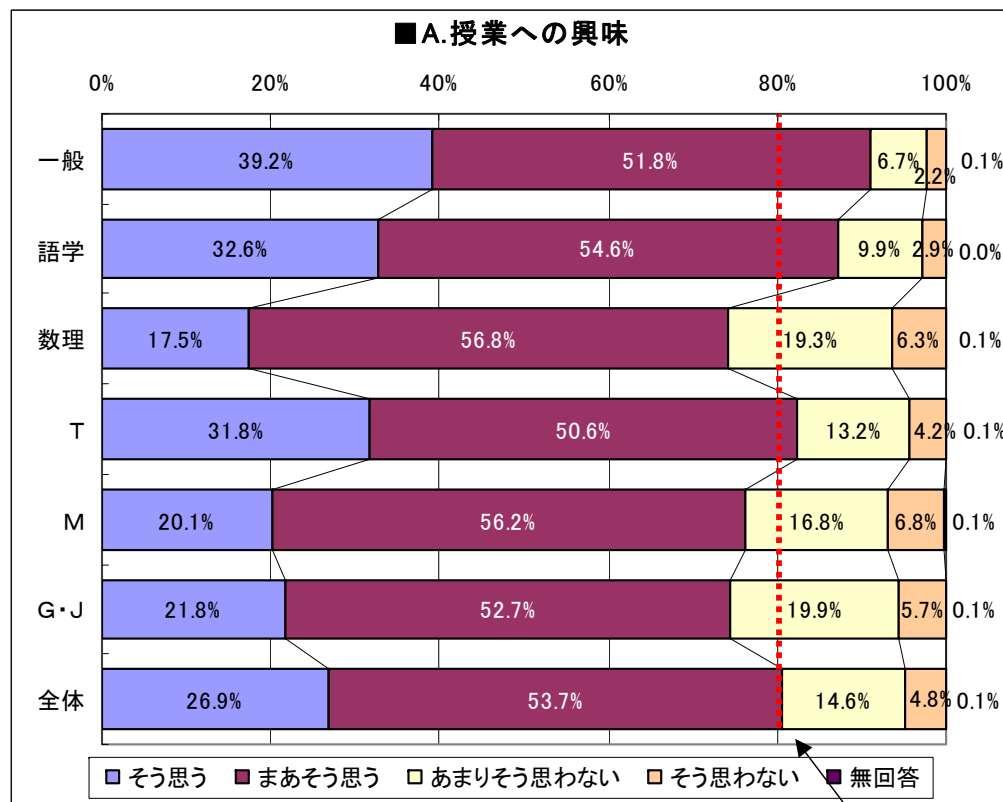
- 授業に関する評価は、棒グラフのプラス側で「そう思う」の割合、マイナス側で「そう思わない」の割合を表現し、「そう思う」から「そう思わない」を引いた数値(単位:ポイント)を折れ線グラフで表現している。
- 「そう思う」の割合は「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」が26.6%で最も高い評価となり、次いで「1.好きな科目である」が23.1%、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が17.6%、「3.課題やレポートなどが適切であった」が14.9%が続いていた。
- 一方、「そう思わない」は「1.好きな科目である」が-11.9%で最も低く、「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が-7.1%、「6.授業中の話し方や説明がわかりやすかった」が-5.4%となっていた。
- 「そう思う」と「そう思わない」の差を見ると、全項目でプラスであり、肯定的な意見の方が多かったと言える。最もポイントが高かったのは「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」の22.9ポイントであり、「1.好きな科目である」が11.2ポイント、「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」が10.8ポイントが続いていた。



<3> 部会別の比較

1) 部会別 授業への取り組み姿勢比較

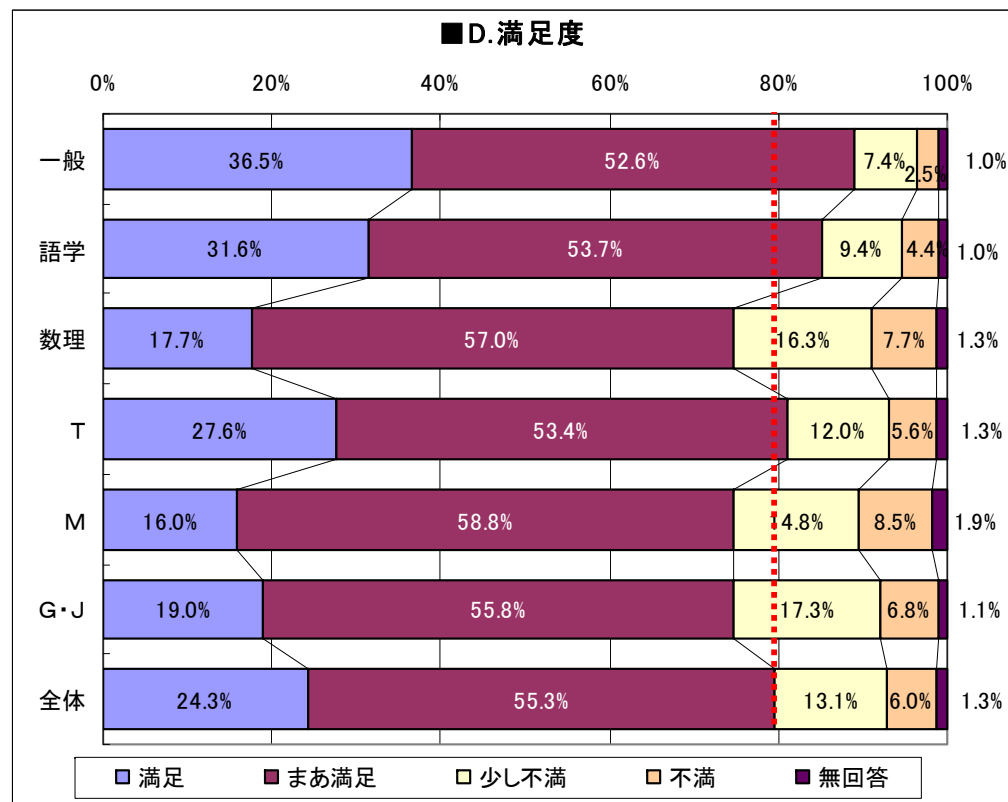
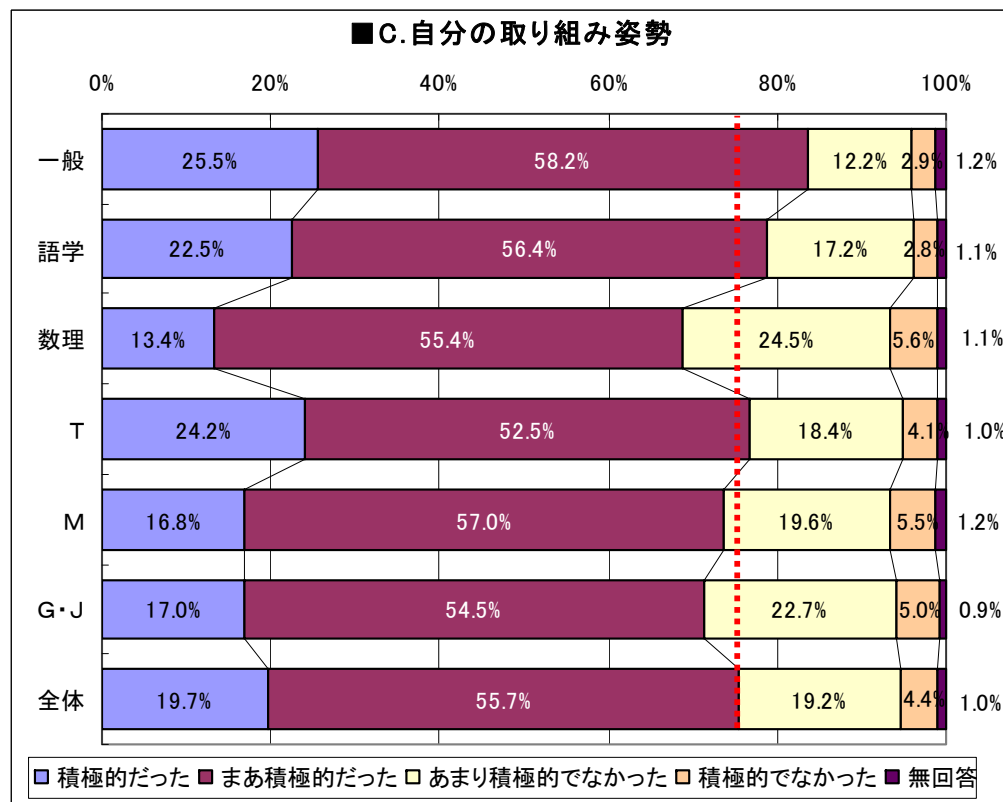
- 「A. 授業への興味」の部会別比較を見ると、「一般」で肯定的な意見が91.0%と最も多かった。そして、「語学」が87.2%、「T」が82.4%と続いており、この3部会の興味が全体平均を上回っていた。
- 上記以外の3部会の傾向はよく似ており、肯定的な意見は「M」で76.3%、「G・J」で74.5%、「数理」で74.3%であった。特に「数理」では「そう思う」が17.5%であり、唯一、2割に満たなかった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」に関しては、「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で比較を行ったが、最も学習時間が長かったのは「数理」の57.7%であり、「T」が56.6%、「M」が52.7%で続いていた。「数理」では「しなかった」が4.9%と非常に少なかった。
- 一方、最も学習時間が短かったのは「語学」の39.8%であり、「一般」が44.6%となっていた。そして、「しなかった」だけを見ると「語学」が34.0%、「G・J」が26.1%、「一般」が25.2%であり、この3学部の多さが目立っていた。



「全体」の肯定的な意見と否定的な意見の境界

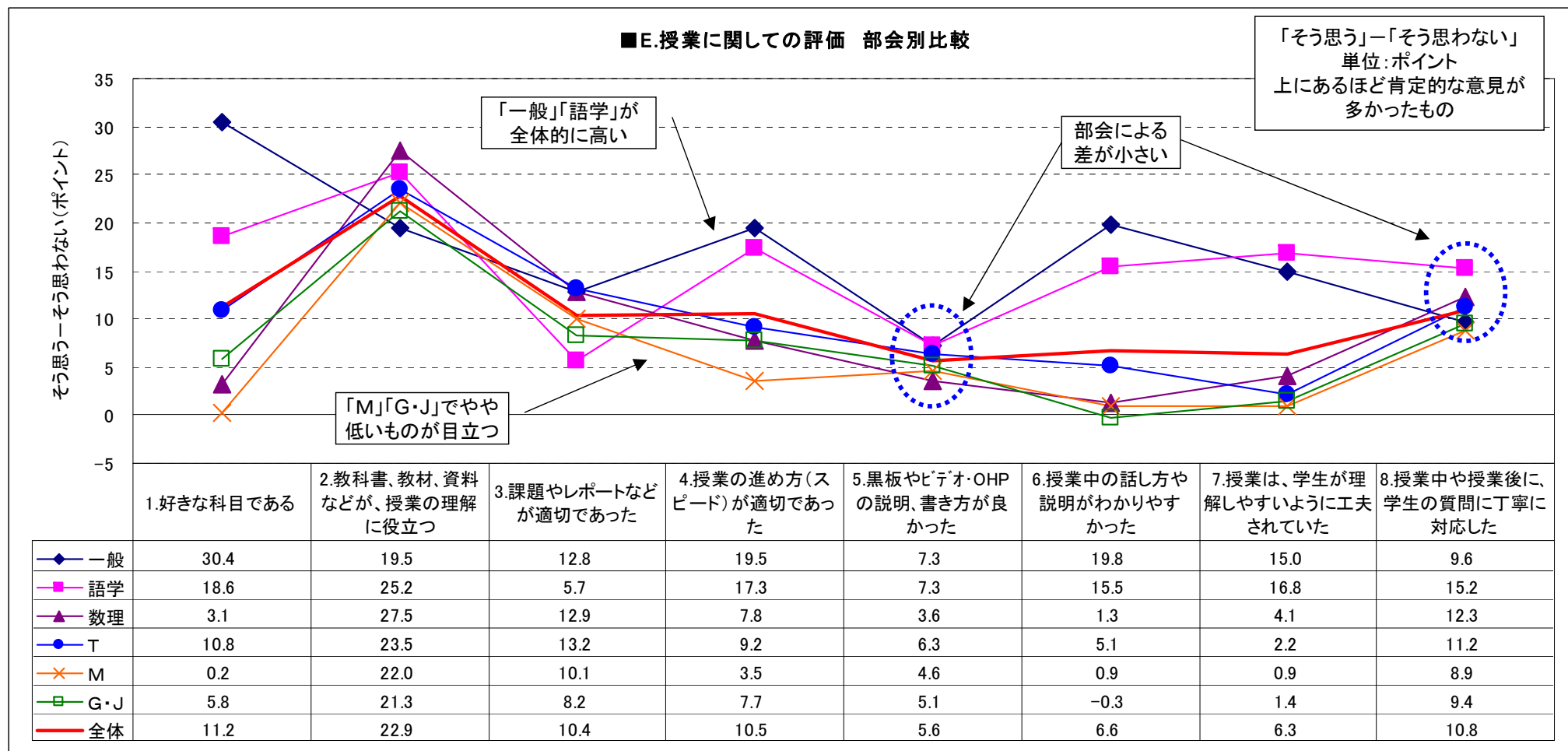
※部会の略称は以下の通り。T: 電気電子工学科、M: 機械工学科、G・J: グローバル情報学科

- 「C. 自分の取り組み姿勢」では「一般」で肯定的な意見が83.7%と積極的であり、「語学」が78.9%、「T」が76.7%で続いていた。一方、最も少なかったのは「数理」の68.8%であり、「積極的だった」が13.4%と、少なさが目立っていた。
- 「D. 満足度」では「一般」で89.1%が肯定的な意見であり、特に「満足」という意見は36.5%と多さが目立っていた。次いで、「語学」では満足という意見が85.3%、「T」では81.0%と続いていた。
- 一方、最も満足度が低かったのは「M」と「G・J」の74.8%であり、「数理」が74.7%となっていた。ただし、いずれの満足度も目立って低いものではなかった。



3)部会別 授業に関するの評価比較全体比較

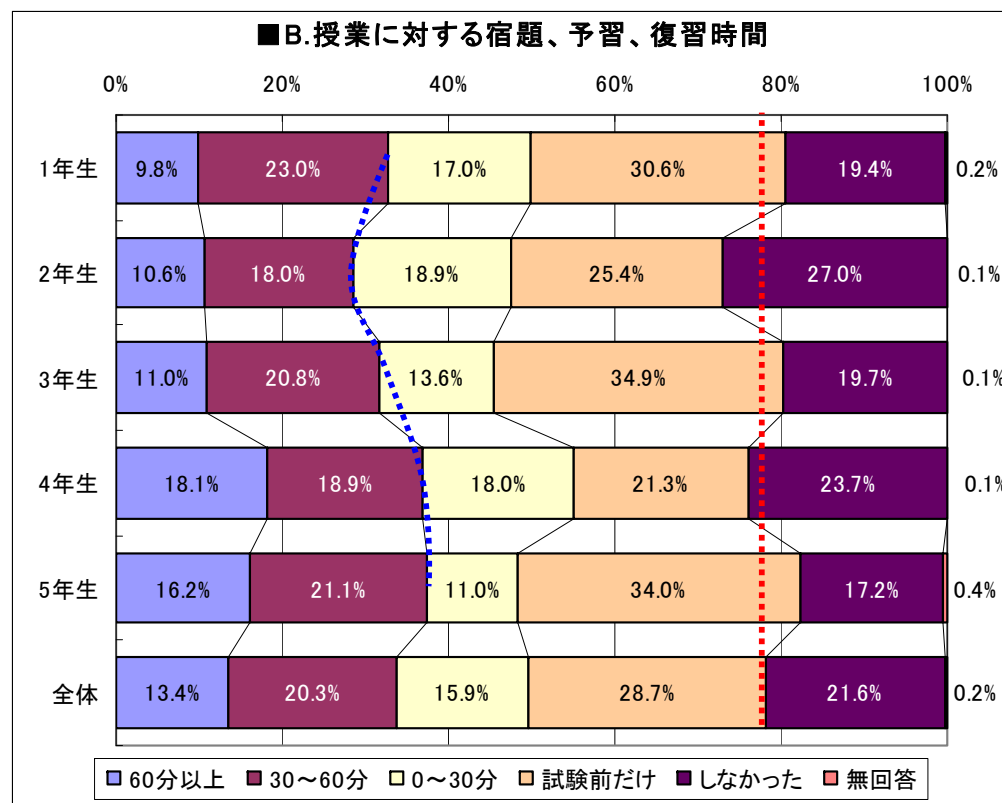
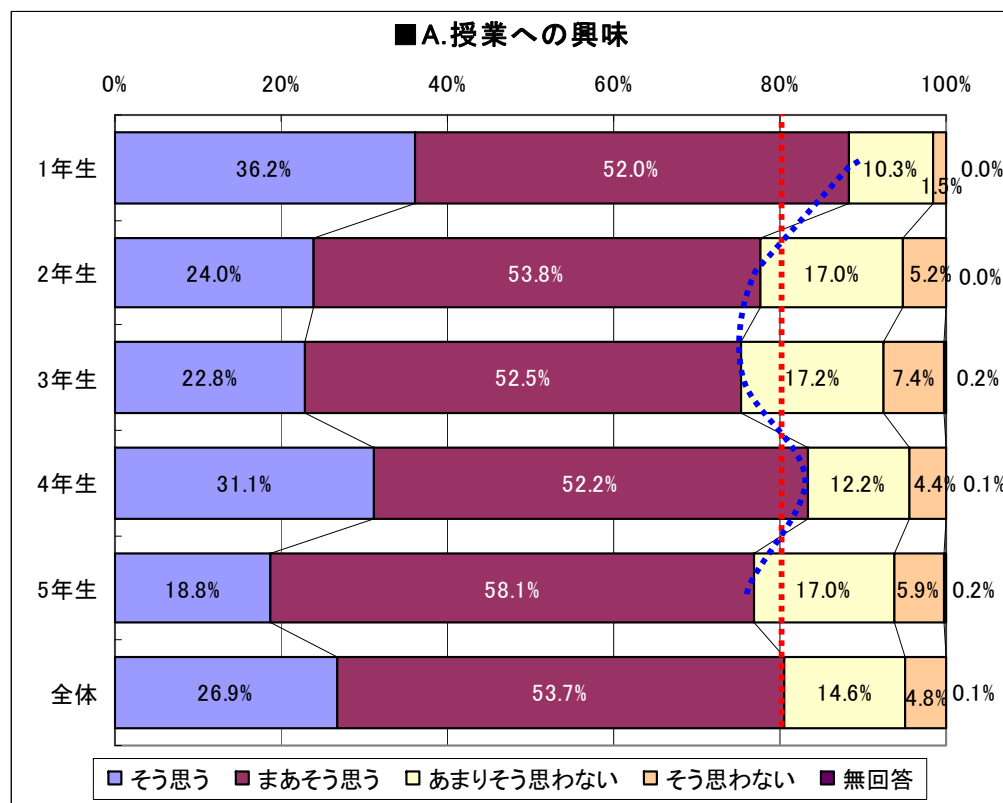
- 授業評価を部会別に比較すると、「一般」と「語学」の評価が全体的に高めであった。特に「一般」は「1.好きな科目である」の高さが目立っており、科目の特性がうかがえた。また、「語学」は「3.課題やレポートなどが適切であった」が全部会の中で最も低かった。
- 一方、「M」「G・J」は全体的に低めであり、「M」は「1.好きな科目である」と「4.授業の進め方(スピード)が適切であった」が低かった。そして、「G・J」は特に目立つものはなく全体的に低かった。
- 部会による差が小さかったのは、「5.黒板やビデオ・OHPの説明、書き方が良かった」「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」の2項目であり、いずれの部会の授業でも似た評価となっていた。



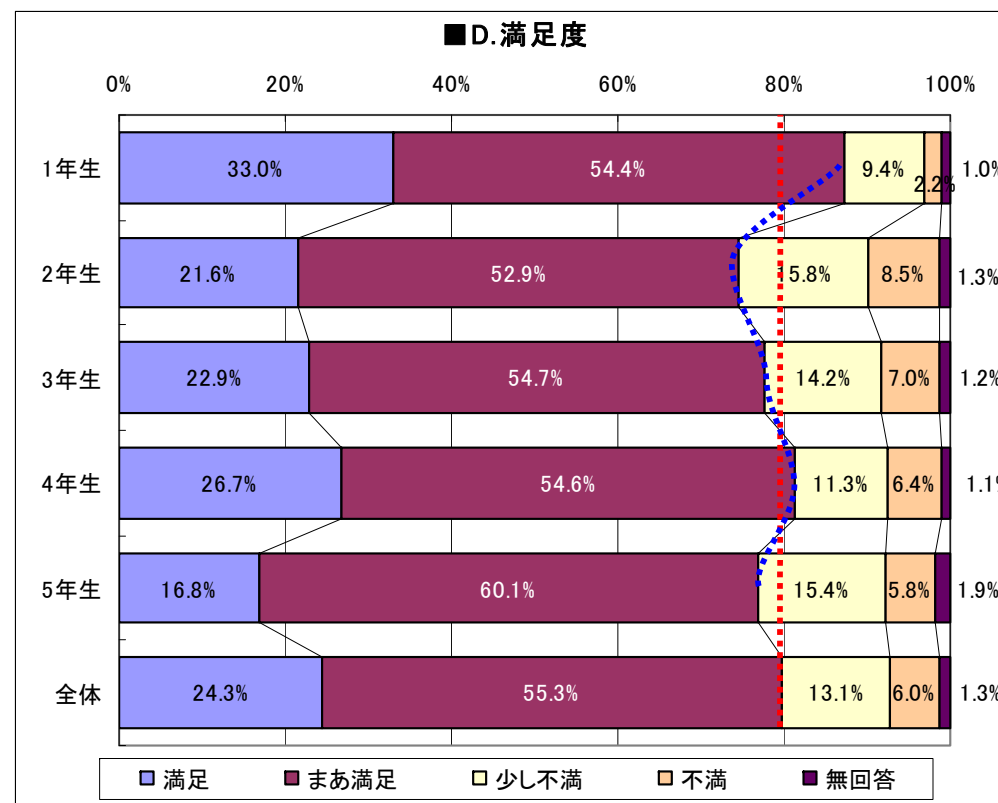
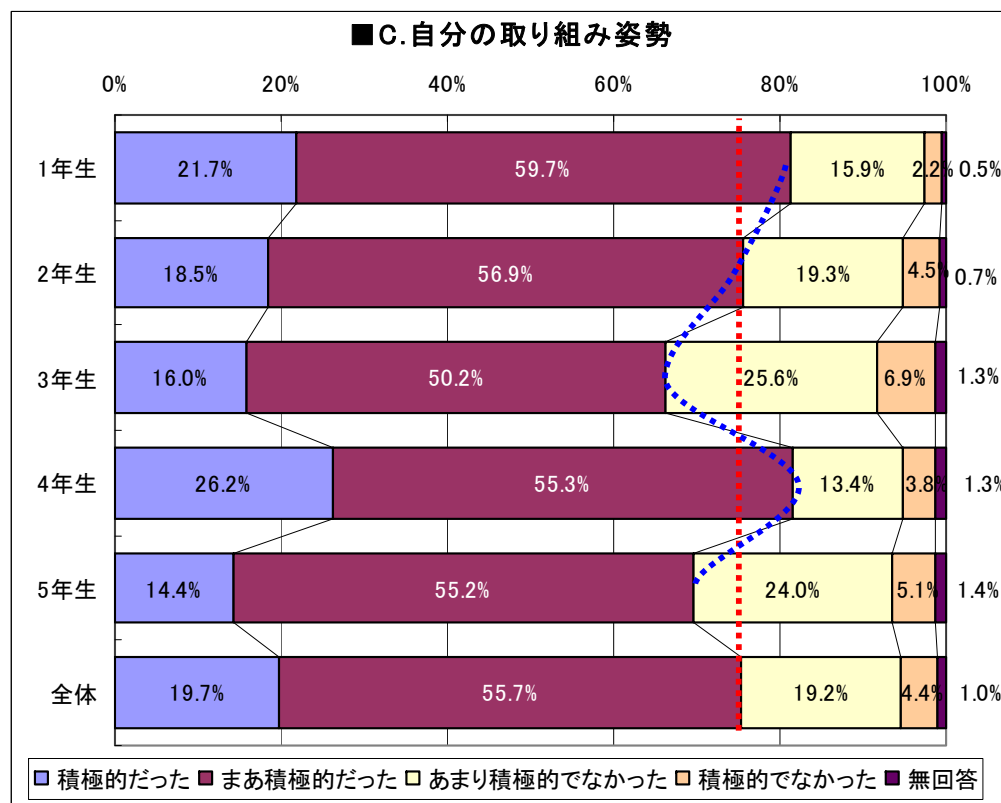
<4> 学年別の比較

1) 学年別 授業への取り組み姿勢比較

- 「A. 授業への興味」を学年別に肯定的意見の合計で比較したところ、「1年生」が88.2%で最も高く、「4年生」が83.3%と続いていた。そして、「2年生」は77.8%、「5年生」は76.9%、「3年生」は75.3%と、3学年の差は小さかった。授業に対する興味は「1年生」と「4年生」の高さが目立っており、学年との相関関係はなさそうであった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」は「60分以上」と「30～60分」の合計で比較したが、「4年生」が37.0%、「5年生」が37.4%であり、高学年がしっかり勉強している様子がうかがえた。ただし、「4年生」では「しなかった」が23.7%と多く、勉強をしない層も確認できた。
- 低学年では「1年生」が32.8%、「2年生」が28.6%、「3年生」が31.8%であり、差は大きくなかった。ただし、「2年生」で「しなかった」が27.0%と多かった。

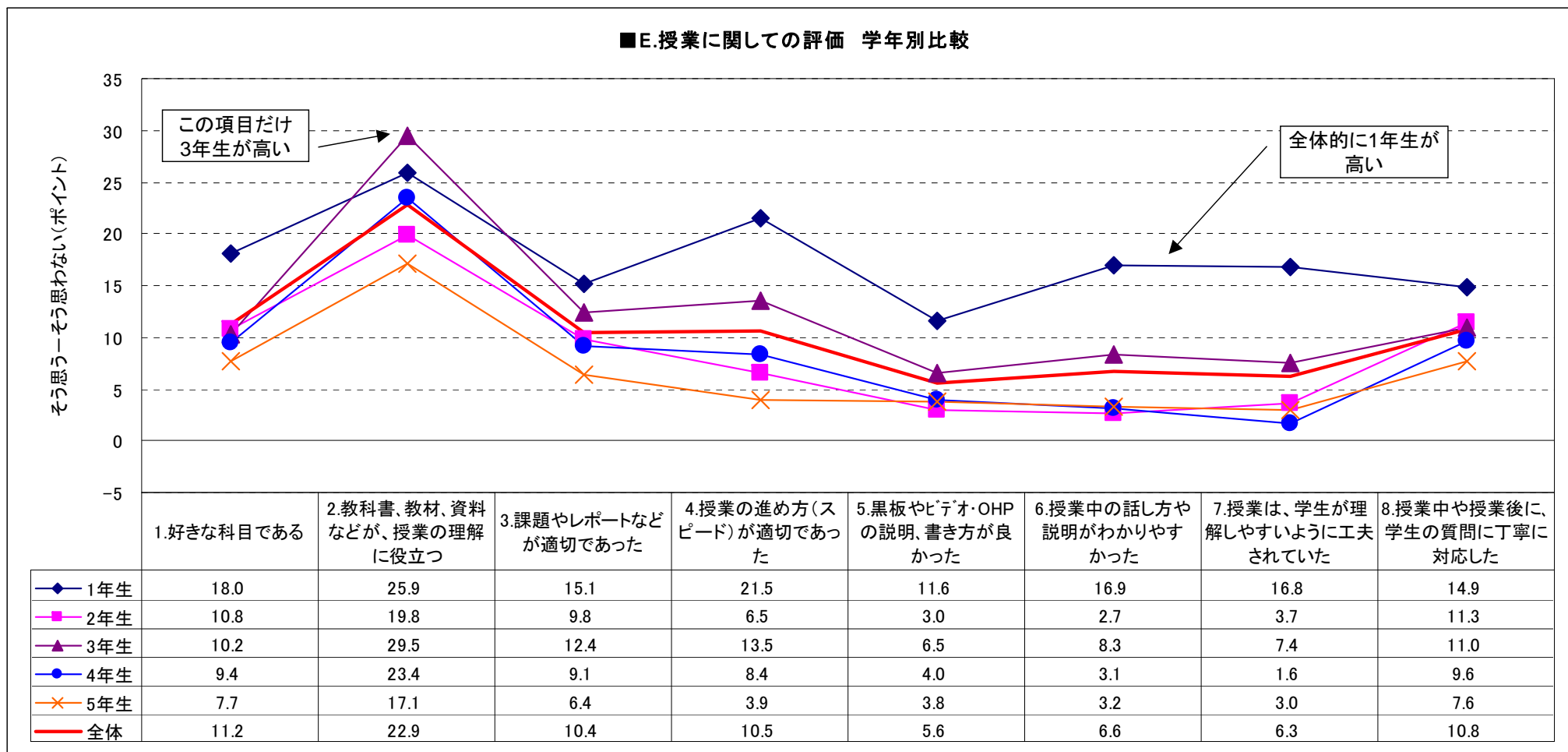


- 「C. 自分の取り組み姿勢」を学年別に比較したところ、「4年生」で「積極的だった」が26.2%と多さが目立っており、肯定的な意見の合計は81.5%となっていた。次いで、「1年生」で81.4%、「2年生」で75.4%と続いていた。一方、最も積極性が低かったのは「3年生」であり、肯定的な意見の合計は66.2%となり、「4年生」との差は15.3ポイントであった。そして、「5年生」が69.6%であり、この2学年の積極性の低さが目立っていた。
- 「D. 満足度」は最も低い「2年生」でも肯定的な意見の合計が74.5%であり、全体的に満足度は高いと言える。
- 満足度が最も高かったのは「1年生」であり、「満足」が33.0%、「まあ満足」が54.4%であり、合わせると87.4%が満足という回答であった。次いで、「4年生」が81.3%、「3年生」が77.6%、「5年生」が76.9%であり、最も高い「1年生」と最も低い「2年生」の差は10.4ポイントであった。



3) 学年別 授業に関するの評価比較全体比較

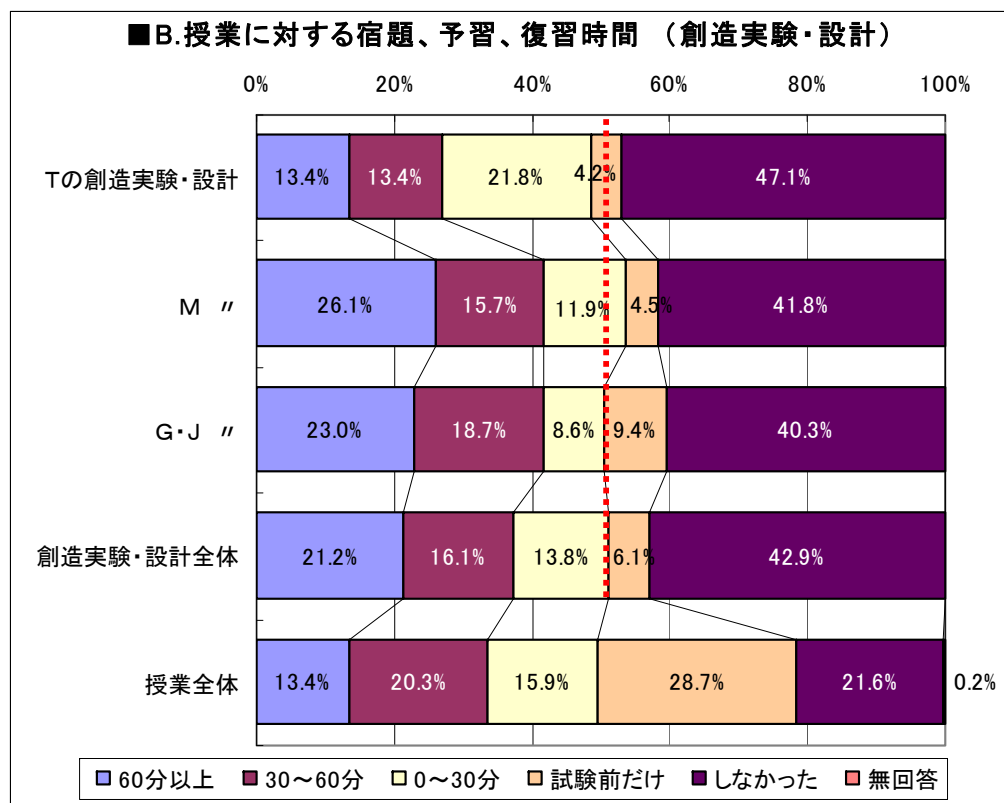
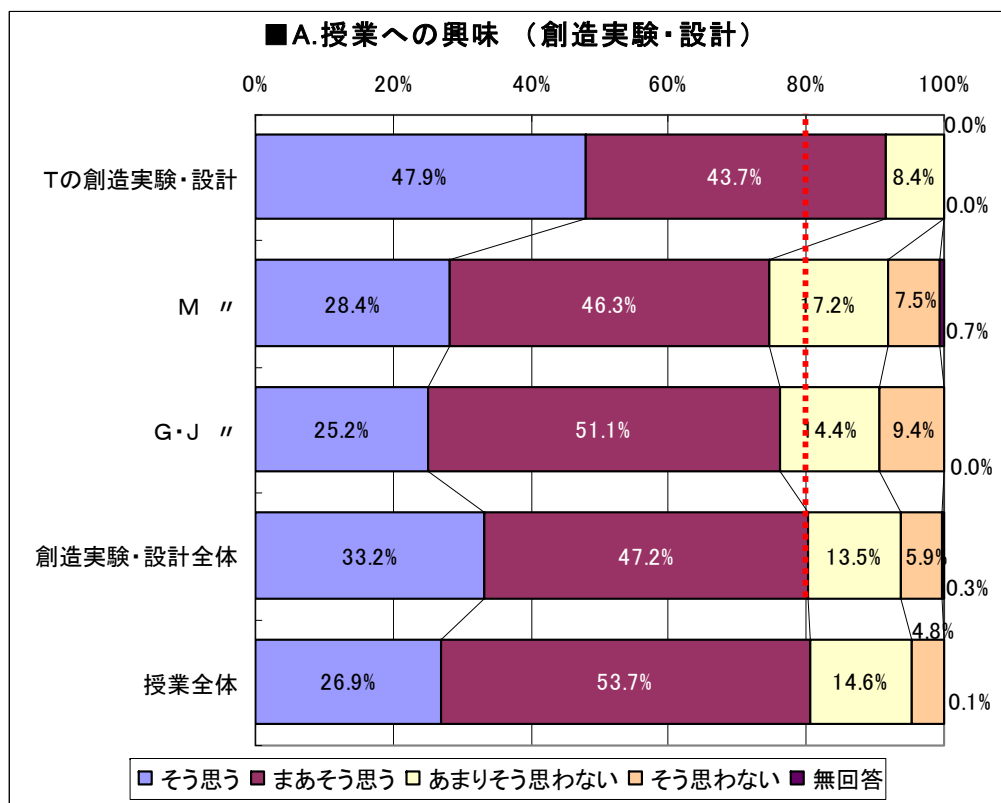
- 授業に関するの評価を学年別に見ると、ほとんどの項目で「1年生」が最も高く、次いで「3年生」の評価が高かった。そして、「5年生」でやや低いものが目立っていた。
- 「1年生」は「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」を除くと全項目で高い評価となっていた。そして、「3年生」は「2.教科書、教材、資料などが、授業の理解に役立つ」が「1年生」を上回っており、他の項目は多くが「1年生」に次ぐ高さであった。
- 一方、「5年生」は目立って低いわけではないが、全体的に評価が低めであった。そして、「2年生」と「4年生」は「5年生」ほど低くないものの、ほとんどの項目で平均を下回る評価であった。



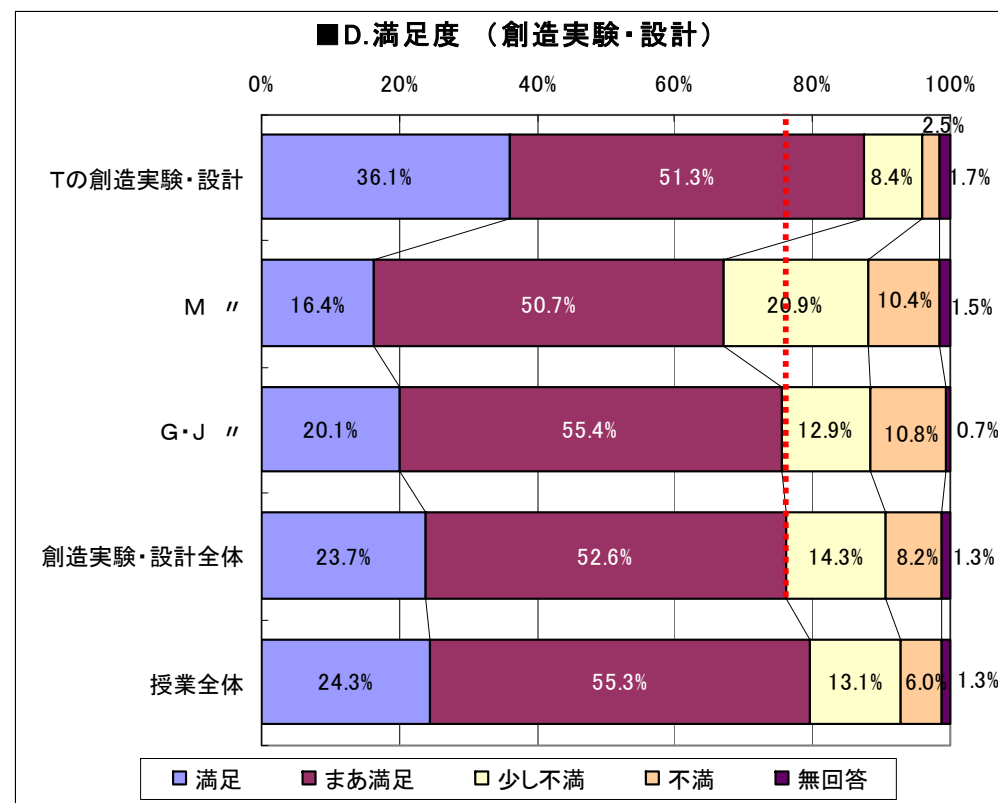
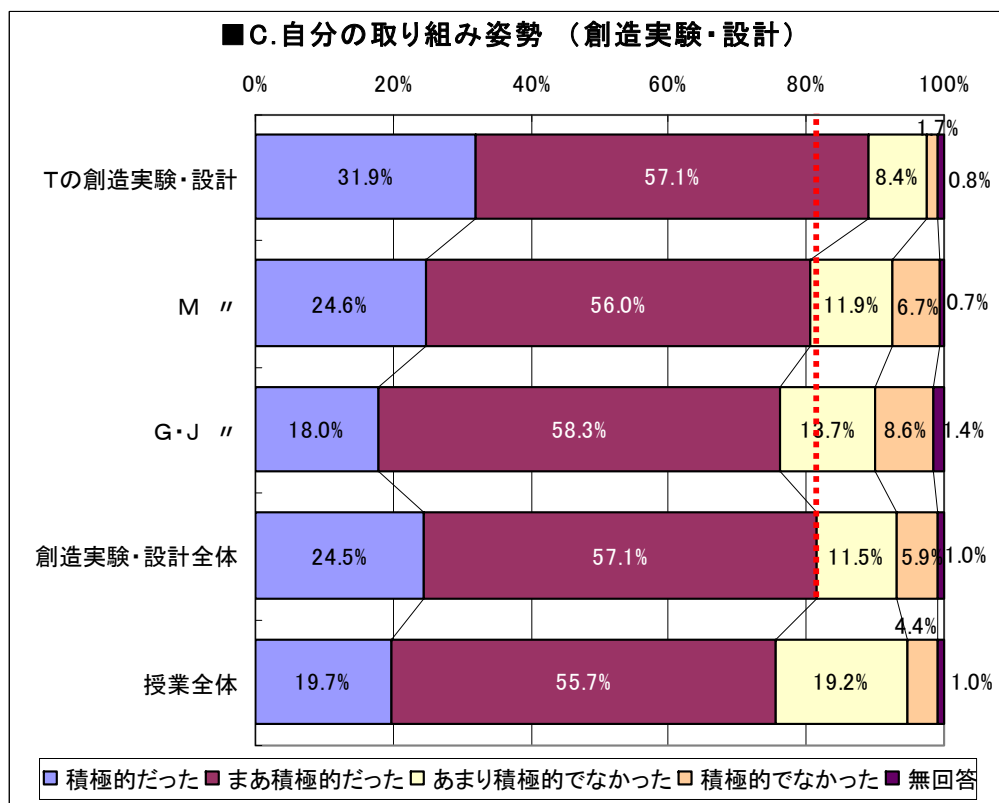
<5> 創造実験・設計に関して

1) 創造実験・設計の授業への取り組み姿勢比較

- 「創造実験」と「創造設計」の授業について部会毎に比較を行った。
- 「A. 授業への興味」を肯定的意見の合計で比較したところ、「創造実験・設計全体」では80.4%が肯定的な意見であり、「授業全体」の80.6%をわずかに0.2ポイント下回っていた。部会別には「T」が91.6%と高さが目立っており、強い興味を持って授業を受けていることが分かった。そして、「G・J」が76.3%、「M」が74.7%であり、この2部会の差は少なかった。
- 「B. 授業に対する宿題、予習、復習時間」を「60分以上」「30～60分」「0～30分」の合計で比較すると、「創造実験・設計全体」は51.1%であり、「授業全体」の49.6%と大きな差は見られなかった。また、部会別でも「M」が53.7%、「G・J」が50.3%、「T」が48.6%であり、あまり大きな差は見られなかった。ただし、「しなかった」は「授業全体」で21.6%であったが、「創造設計・実験全体」で42.9%であり、各部会も変わらない割合であった。これらを見ると、「創造設計・実験」に関してはしっかりと学習時間を確保している学生も多いが、全くしなかったという学生が4割を占めており、特徴的な点であるといえる。

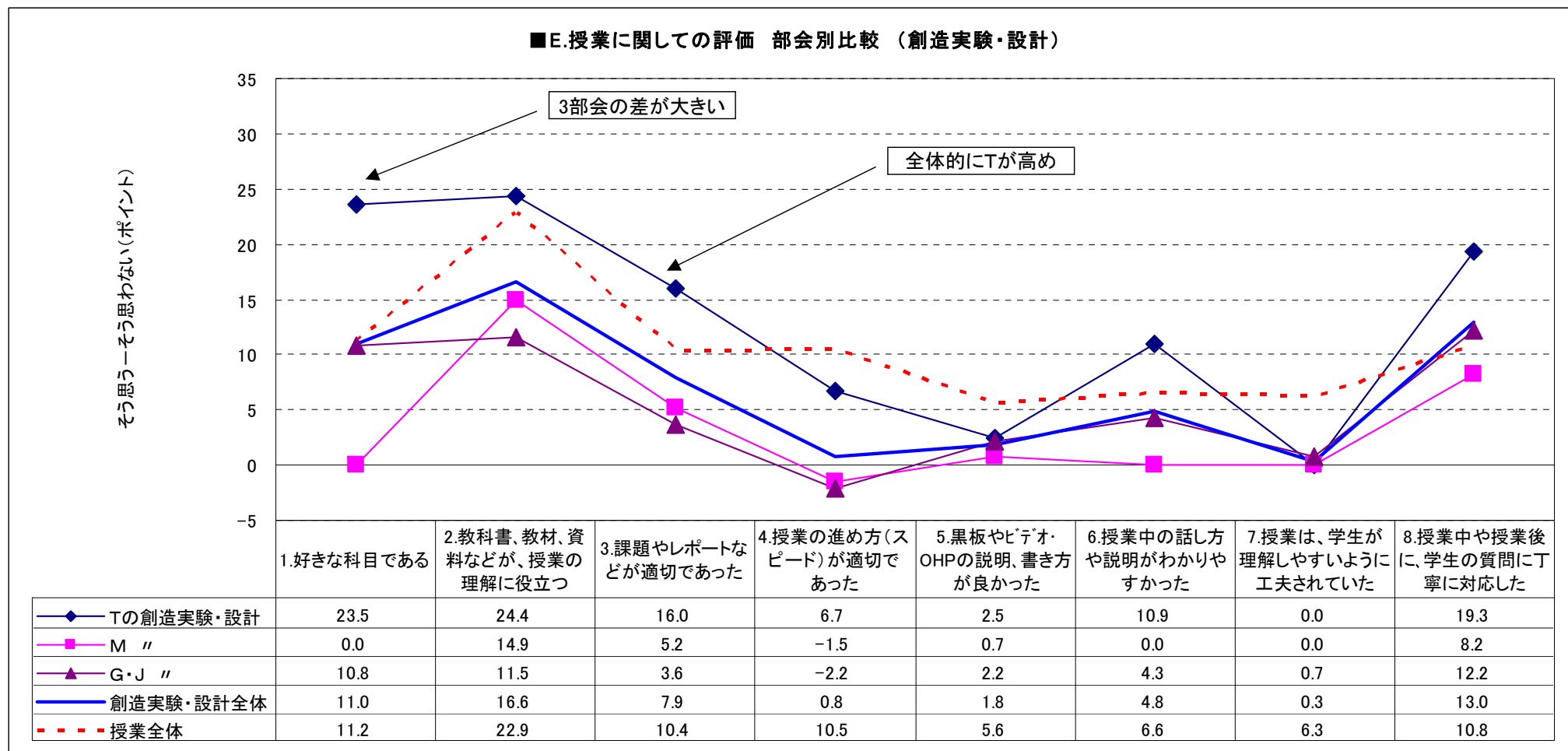


- 「C. 自分の取り組み姿勢」で肯定的な意見を見ると、「創造実験・設計全体」で81.6%、「授業全体」で75.4%であり、創造実験・設計に対する積極性がうかがえた。部会別には「T」が89.0%と高さが目立っており、特に「積極的だった」が31.9%であった。次いで、「M」が80.6%、「G・J」が76.3%となっており、「T」と「G・J」の差は12.7ポイントであった。
- 「D. 満足度」は「創造実験・設計全体」で76.3%が肯定的な意見であり、「授業全体」の79.6%と比べると3.3ポイント低く、よく似た傾向となっていた。部会別に見ると「T」では87.4%が満足という意見であり、「満足」だけを見ても36.1%と、満足度が非常に高いと言える。次いで、「G・J」では75.5%、「M」では67.1%が満足という意見であり、「T」と「M」の差は20.3ポイントであり、大きな差となっていた。



3) 創造実験・設計の授業に関する評価比較

- 授業評価に関して「創造実験・設計全体」と「授業全体」を比較したところ、全体的に「授業全体」の方が評価が高かった。ただし、「8.授業中や授業後に、学生の質問に丁寧に対応した」はわずかに逆転しており、「1.好きな科目である」では差がほとんどなかった。
- 部会別に見ると「T」が全体的に高い評価となっており、特に「1.好きな科目である」の高さが目立っていた。そして、「M」と「G・J」の差はあまり大きくなかったが、「1.好きな科目である」に関しては「M」の低さが目立っており、この項目は3つの部会による差が非常に大きくなっていった。



<6> 部会別、評価の高かった科目比較

1) 一般

- 「興味」「積極性」「満足度」を加重平均で点数化し、H27とH28のスコアを部会別に比較した。
- H28の一般科目では3指標ともに「文化・芸術・思想」に関する科目の評価が高く、「興味」と「積極性」は上位2つを占めていた。それに次いで、「保健体育Ⅳ」「デザイン概論A」が3指標ともに3位、4位を占めていた。「保健体育」に関しては「Ⅰ」「Ⅱ」も上位に入っており高い評価となっていた。そして、「満足度」の2位であった「社会科学ⅡA」は「興味」「積極性」も上位に入っていた。
- H27は3指標ともに「保健体育Ⅲ」がトップであった。H28には「保健体育Ⅲ」はなかったものの、「保健体育」に関する科目が上に見られた。H28に上位であった「文化・芸術・思想」はH27の「興味」「満足度」で上位10位に入っていたが、それほど高い評価ではなく、「デザイン概論」も同様であった。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	保健体育Ⅲ	8.45	保健体育Ⅲ	7.88	保健体育Ⅲ	7.99
2	社会科学Ⅱ	7.71	保健体育Ⅳ	7.39	社会科学Ⅱ	7.61
3	国語Ⅰ	7.46	国語Ⅰ	5.94	保健体育Ⅰ	7.08
4	保健体育Ⅰ	7.08	保健体育Ⅰ	5.77	国語Ⅰ	6.79
5	デザイン概論B	6.94	社会科学Ⅱ	5.63	歴史Ⅱ	6.74
6	歴史Ⅱ	6.68	社会科学Ⅰ	5.49	歴史Ⅰ	6.64
7	文化・芸術・思想ⅢB(2)	6.43	国語Ⅲ	5.49	社会科学Ⅰ	6.44
8	国語Ⅲ	6.40	歴史Ⅱ	5.44	デザイン概論B	6.39
9	文化・芸術・思想ⅢA(1)	6.36	デザイン概論B	5.28	社会科学ⅢA	6.32
10	文化・芸術・思想ⅢA(2)	6.36	社会科学ⅢA	5.26	文化・芸術・思想ⅢA(1)	5.91

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	文化・芸術・思想ⅡB	9.00	文化・芸術・思想ⅡB	8.89	文化・芸術・思想ⅡB	9.44
2	文化・芸術・思想ⅢA	8.24	文化・芸術・思想ⅢA	7.21	社会科学ⅡA	8.06
3	保健体育Ⅳ	8.16	デザイン概論A	7.08	保健体育Ⅳ	7.50
4	デザイン概論A	7.92	保健体育Ⅳ	7.00	デザイン概論A	7.27
5	社会科学ⅢB	7.61	社会科学ⅡA	6.94	社会科学ⅢB	7.27
6	文化・芸術・思想ⅡA	7.50	社会科学ⅡB	5.83	保健体育Ⅰ	7.26
7	社会科学ⅡA	7.37	日本語スキルズ	5.41	社会科学ⅡB	7.07
8	保健体育Ⅰ	7.26	保健体育Ⅱ	5.24	文化・芸術・思想ⅢA	7.06
9	国語Ⅰ	6.94	保健体育Ⅰ	5.10	社会科学ⅢA	6.88
10	社会科学ⅡB	6.83	国語Ⅰ	5.09	歴史Ⅰ	6.47

2) 語学

- H28には「興味」と「満足度」の上位3科目が共通であり、「総合英語 I (R)」「英語スキルズ I」「総合英語IV」と続いていた。「英語スキルズ I」は「積極性」でも1位であり、他の2科目も「積極性」で上位10科目に入っていた。そして、「積極性」で上位であった「海外英語研修」「上級英語 I」も「興味」「満足度」で上位10科目に入っており、いずれも評価が高い科目と言える。
- H27との比較では「興味」で「総合英語 I (R)」「英語スキルズ I」「総合英語IV」が上位であり、「積極性」「満足度」でも上位に見られた。一方、H27で高評価であった「世界事情 I」「世界事情 II」はH28には見られず、「満足度」でトップであった「英語表現技法B」に関してもH28には「英語表現技法」が上位10科目に見られたものの、「満足度」はそれほど高いものではなかった。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	世界事情 II	7.00	世界事情 I	5.65	英語表現技法B	6.43
2	総合英語 I (R)	6.76	総合英語 III	5.33	総合英語 I (R)	6.37
3	総合英語 IV	6.19	英語スキルズ I	4.86	世界事情 I	6.14
4	英語スキルズ I	5.83	英語表現技法B	4.62	総合英語 I (G)	5.59
5	総合英語 I (G)	5.67	総合英語 I (G)	4.55	総合英語 III	5.43
6	英語表現技法A	5.67	総合英語 I (R)	4.49	世界事情 II	5.25
7	総合英語 III	5.60	英語スキルズ II	4.39	総合英語 IV	5.24
8	世界事情 I	5.43	世界事情 II	4.00	英語スキルズ II	4.71
9	英語表現技法B	5.00	総合英語 II	3.95	英語表現技法A	4.67
10	上級英語 I	4.76	上級英語 I	3.94	上級英語 I	4.40

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	総合英語 I (R)	7.40	英語スキルズ I	5.43	総合英語 I (R)	7.26
2	英語スキルズ I	6.92	海外英語研修	5.37	英語スキルズ I	6.02
3	総合英語 IV	6.38	上級英語 I	5.07	総合英語 IV	5.89
4	海外英語研修	6.11	英語スキルズ II	5.00	総合英語 III	5.75
5	日本文化	6.00	総合英語 IV	5.00	日本文化	5.71
6	上級英語 I	5.65	日本文化	4.48	総合英語 I (G)	5.34
7	総合英語 I (G)	5.44	英語表現技法	4.31	海外英語研修	5.19
8	英語スキルズ II	5.39	総合英語 I (G)	4.08	英語スキルズ II	4.80
9	総合英語 III	5.06	総合英語 I (R)	3.46	英語表現技法	4.74
10	英語表現技法	3.97	総合英語 III	3.45	上級英語 I	4.63

3) 数理

- H28の数理では、3つの指標ともにトップは異なるものの、上位は共通しているものが多く、「数理統計A」「応用数学Ⅰ」「応用数学Ⅱ」「微分積分Ⅱ」が上位を占めていた。また、「積極性」が高かった「線形代数Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」の「興味」「満足度」も低くはなかった。
- H27は3つの指標ともに「基礎数学Ⅱ」がトップであったが、上でも見たようにH28でも「積極性」「満足度」が5位になるなど、評価は低くなかった。「微分積分Ⅱ」はH27でも評価が高く、「数理統計」は「数理統計A」との違いはあるものの、H27でも「興味」が3位であり、継続して高い評価であった。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	基礎数学Ⅱ	7.14	基礎数学Ⅱ	6.50	基礎数学Ⅱ	7.32
2	微分積分Ⅱ	5.77	微分積分Ⅱ	4.73	微分積分Ⅱ	6.48
3	数理統計	5.00	物理・化学Ⅲ	3.58	線形代数Ⅰ	4.72
4	線形代数Ⅰ	4.44	線形代数Ⅰ	3.48	応用数学Ⅱ	4.49
5	応用数学Ⅱ	4.37	微分積分Ⅰ	3.45	数理統計	4.42
6	物理・化学Ⅲ	4.20	物理化学Ⅰ	3.23	微分積分Ⅰ	4.11
7	物理化学Ⅰ	4.09	数理統計	2.88	応用数学Ⅰ	3.77
8	微分積分Ⅰ	3.74	応用数学Ⅰ	2.69	物理・化学Ⅲ	3.69
9	応用数学Ⅰ	3.48	応用数学Ⅱ	2.57	応用物理Ⅱ	3.37
10	線形代数Ⅱ	3.06	線形代数Ⅱ	2.41	物理・化学Ⅱ	3.33

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	数理統計A	6.00	応用数学Ⅰ	5.40	微分積分Ⅱ	6.15
2	応用数学Ⅱ	5.07	数理統計A	4.50	数理統計A	6.00
3	応用数学Ⅰ	4.84	線形代数Ⅰ	4.09	応用数学Ⅱ	5.67
4	微分積分Ⅱ	4.83	微分積分Ⅱ	3.90	応用数学Ⅰ	4.76
5	物理化学Ⅰ	4.44	基礎数学Ⅱ	3.44	基礎数学Ⅱ	4.62
6	線形代数Ⅰ	4.33	応用数学Ⅱ	3.24	物理化学Ⅰ	4.62
7	基礎数学Ⅱ	4.29	物理化学Ⅰ	3.21	線形代数Ⅰ	4.18
8	応用物理Ⅰ	4.13	応用物理Ⅰ	3.04	基礎数学Ⅰ	3.19
9	基礎数学Ⅰ	2.94	微分積分Ⅰ	2.84	応用物理Ⅱ	2.95
10	物理化学Ⅱ	2.62	物理化学Ⅱ	2.21	微分積分Ⅰ	2.26

4)T

- H28の「積極性」と「満足度」のトップは「インターンシップ」であり、「興味」も2位となり高い評価となっていた。「満足度」が2位であった「創造実験Ⅰ」が「興味」で1位であり、「積極性」も5位と低くなかった。その他では「パワーエレクトロニクス」「設計製図」「デザインメソッドⅠ」が上位に見られた。
- H27で「満足度」が1位であった「オペレーティングシステム」はH28では見られなかった。そして、「デザインメソッドⅠ」「創造実験Ⅰ」はH27でも上位となっていた。H28に高評価であった「インターンシップ」「パワーエレクトロニクス」はH27では見られず、両年の差が見られた。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	コンピュータⅠ	8.17	デザインメソッドⅠ	7.59	オペレーティングシステム	7.50
2	デザインメソッドⅠ	8.10	コンピュータⅠ	6.83	電気基礎	7.00
3	ソフトウェア工学	7.69	情報工学Ⅰ	6.72	コンピュータⅠ	6.67
4	創造実験Ⅰ	7.50	創造実験Ⅰ	6.67	デザインメソッドⅠ	6.38
5	発変電工学	7.50	電気基礎	6.55	インターンシップ	6.29
6	情報工学Ⅰ	7.07	ソフトウェア工学	6.15	創造実験Ⅰ	6.17
7	電気基礎	7.00	オペレーティングシステム	6.00	電気法規と施設管理	6.15
8	設計製図	6.67	創造実験Ⅲ	6.00	発変電工学	6.11
9	創造実験Ⅱ	6.54	発変電工学	5.93	設計製図	6.00
10	オペレーティングシステム	6.50	設計製図	5.48	情報工学Ⅰ	5.86

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	創造実験Ⅰ	8.33	インターンシップ	8.33	インターンシップ	7.61
2	インターンシップ	8.13	システム設計Ⅱ	7.39	創造実験Ⅰ	7.59
3	コンピュータⅠ	7.93	設計製図	7.29	パワーエレクトロニクス	7.29
4	パワーエレクトロニクス	7.71	デザインメソッドⅠ	7.10	設計製図	7.29
5	発変電工学	7.71	創造実験Ⅰ	7.00	デザインメソッドⅠ	7.26
6	デザインメソッドⅠ	7.58	エンジニアリングマネジメントb	6.96	システム設計Ⅱ	7.17
7	システム設計Ⅱ	7.39	パワーエレクトロニクス	6.88	コンピュータⅠ	7.07
8	デザインメソッドⅡ	7.33	発変電工学	6.74	発変電工学	6.88
9	システム工学	7.29	創造実験Ⅳ	6.67	システム工学	6.46
10	エンジニアリングマネジメントb	7.17	デジタル回路／電子回路Ⅰ	6.30	情報工学Ⅰ	6.38

5)M

- H28は3つの指標ともに「インターンシップ」の評価が最も高かった。次いで、「機械工学演習Ⅲ」「エンジニアリングマネジメント」が上位となっており、「興味」と「積極性」では「計測制御Ⅱ」が上位となっていた。そして、「卒業研究」「材料力学Ⅰ」「材料力学Ⅱ」も上位に見られた。
- H27には「興味」と「満足度」で「デザインメソッドⅠ」がトップであったが、H28には「デザインメソッドⅡ」が「満足度」で5位に入るなどしていた。その他では「エンジニアリングマネジメント」「インターンシップ」が上位であり、この2科目はH28と同様に高い評価であった。そして、H28に高評価であった「機械工学演習Ⅲ」「計測制御Ⅱ」はH27には見られなかった。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	デザインメソッドⅠ	7.18	材料力学Ⅰ	6.84	デザインメソッドⅠ	6.41
2	インターンシップ	6.89	エンジニアリングマネジメント	6.39	機械工学概論Ⅰ	6.28
3	機械工学概論Ⅰ	6.67	インターンシップ	6.22	機械製図Ⅰ	5.64
4	機械製図Ⅰ	6.54	デザインメソッドⅠ	6.15	機械製図Ⅱ	5.54
5	エンジニアリングマネジメント	6.53	創造設計Ⅰ	6.05	機械設計	5.54
6	創造設計Ⅰ	6.45	情報リテラシー	5.66	エンジニアリングマネジメント	5.42
7	機械製図Ⅱ	5.79	創造設計Ⅲ	5.66	情報リテラシー	5.39
8	情報リテラシー	5.79	機械製図Ⅱ	5.53	材料力学Ⅰ	5.00
9	卒業研究	5.63	卒業研究	5.47	機械工学実験Ⅰ	4.86
10	創造設計Ⅱ	5.54	創造設計Ⅱ	5.41	インターンシップ	4.86

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.63	インターンシップ	7.57	インターンシップ	6.32
2	エンジニアリングマネジメント	6.84	計測制御Ⅱ	6.50	機械工学演習Ⅲ	6.25
3	機械工学演習Ⅲ	6.56	機械工学演習Ⅲ	6.25	エンジニアリングマネジメント	6.22
4	計測制御Ⅱ	6.50	エンジニアリングマネジメント	6.22	材料力学Ⅱ	6.05
5	材料力学Ⅰ	6.45	卒業研究	6.00	デザインメソッドⅡ	5.71
6	卒業研究	6.11	材料力学Ⅱ	5.92	卒業研究	5.69
7	材料力学Ⅱ	6.05	材料力学Ⅰ	5.65	機械工学特論Ⅰ	5.18
8	機械工学特論Ⅰ	5.54	創造設計Ⅲ	5.16	機械製図Ⅰ	5.16
9	デザインメソッドⅡ	5.43	デザインメソッドⅡ	4.71	メカトロニクスⅠ	5.00
10	創造設計Ⅲ	5.33	計測制御Ⅰ	4.61	情報リテラシー	5.00

6) G・J

- H28は「興味」「積極性」で「インターンシップ」がトップ、「満足度」では「デザインメソッドⅡ」がトップであった。「デザインメソッド」では「Ⅰ」の評価も高く、「満足度」は4位となっていた。その他では「コンピュータリテラシーⅠ」が3指標ともに2位となり、「英語討議技法」「エンジニアリングマネジメント」の評価も高かった。
- H27でも「インターンシップ」が「積極性」「満足度」とともに1位で、「興味」も高かった。同様に「英語討議技法」の評価も高く、この2科目の評価の高さはH28と共通していた。その他、「デザインメソッドⅠ」の評価もやや高かった。一方、H27に高評価であった「プログラミング基礎」はH28の「興味」「積極性」で10位に入っているものの、「満足度」は10位に入っておらず、兩年の差が見られた。

■H27で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	プログラミング基礎	7.44	インターンシップ	6.63	インターンシップ	6.25
2	インターンシップ	7.13	プログラミング基礎	6.25	プログラミング基礎	5.93
3	英語討議技法	6.50	英語討議技法	6.00	英語討議技法	5.79
4	ビジネスシステム	6.03	創造実験Ⅲ	5.42	ビジネスシステム	5.69
5	英語総合技能Ⅰ	6.03	ビジネスシステム	5.34	デザインメソッドⅠ	5.58
6	デザインメソッドⅠ	5.93	デザインメソッドⅠ	5.12	ネットワークシステム	5.47
7	日本文化	5.53	英語総合技能Ⅰ	5.00	創造実験Ⅲ	5.42
8	創造実験Ⅲ	5.42	日本文化	4.72	コンピュータ演習Ⅰ	5.36
9	コンピュータ演習Ⅰ	5.32	エンジニアリングマネジメント	4.50	英語総合技能Ⅰ	5.34
10	情報処理Ⅰ	4.88	カレントイングリッシュ	4.50	情報数学Ⅱ	5.29

■H28で評価の高かった上位10科目

	「興味」		「積極性」		「満足度」	
	科目名	加重平均	科目名	加重平均	科目名	加重平均
1	インターンシップ	7.31	インターンシップ	7.31	デザインメソッドⅡ	7.05
2	コンピュータリテラシーⅠ	7.07	コンピュータリテラシーⅠ	6.63	コンピュータリテラシーⅠ	6.41
3	英語討議技法	6.67	卒業研究	5.74	インターンシップ	6.03
4	デザインメソッドⅡ	6.63	創造設計Ⅰ	5.34	デザインメソッドⅠ	5.87
5	デザインメソッドⅠ	6.41	英語討議技法	5.17	エンジニアリングマネジメント	5.69
6	エンジニアリングマネジメント	6.35	エンジニアリングマネジメント	5.14	英語討議技法	5.67
7	卒業研究	5.88	デザインメソッドⅠ	4.89	情報システムⅡ	5.56
8	情報システムⅡ	5.81	プログラミング基礎	4.89	英語総合技能Ⅰ	5.50
9	創造設計Ⅰ	5.67	情報システムⅡ	4.86	創造設計Ⅰ	5.22
10	プログラミング基礎	5.33	デザインメソッドⅡ	4.25	情報数学Ⅱ	5.15

7)部会別 評価の高かった科目比較から分かった事柄

「一般」では「文化・芸術・思想」が3指標共に高く、その他、「保健体育Ⅳ」「デザイン概論A」「社会科学ⅡA」の評価が高かった。

- 一般科目では3指標ともに「文化・芸術・思想」に関する科目の評価が高かった。次いで「保健体育Ⅳ」「デザイン概論A」が3指標ともに3位、4位を占めており、「社会科学ⅡA」の「満足度」が2位であった。
- H27は3指標ともに「保健体育Ⅲ」がトップであったが、H28には「保健体育Ⅲ」はなかったものの、「保健体育」に関する科目が上に見られた。H28に上位であった「文化・芸術・思想」「デザイン概論」はH27にはそれほど高い評価ではなかった。

「T」では「インターンシップ」「創造実験Ⅰ」「パワーエレクトロニクス」「設計製図」「デザインメソッドⅠ」が上位であった。

- H28の「T」では「積極性」と「満足度」で「インターンシップ」がトップ、「興味」が2位となり高い評価となっていた。その他では「創造実験Ⅰ」「パワーエレクトロニクス」「設計製図」「デザインメソッドⅠ」が上位に見られた。
- H27で「満足度」が1位であった「オペレーティングシステム」はH28では見られなかった。そして、「デザインメソッドⅠ」「創造実験Ⅰ」はH27でも上位となっていた。H28に高評価であった「インターンシップ」「パワーエレクトロニクス」はH27では見られず、両年の差が見られた。

「語学」では、「総合英語Ⅰ(R)」「英語スキルズⅠ」「総合英語Ⅳ」の3科目の評価が高かった。

- 「語学」のH28では「興味」と「満足度」の上位3科目が「総合英語Ⅰ(R)」「英語スキルズⅠ」「総合英語Ⅳ」であった。「英語スキルズⅠ」は「積極性」でも1位であり、他の2科目も積極性で上位10科目に入っていた。
- H27との比較では「興味」で「総合英語Ⅰ(R)」「英語スキルズⅠ」「総合英語Ⅳ」が上位であり、「積極性」「満足度」でも上位に見られた。一方、H27で高評価であった「世界事情Ⅰ」「世界事情Ⅱ」はH28には見られなかった。

「M」では3指標ともに「インターンシップ」がトップで、「機械工学演習Ⅲ」「エンジニアリングマネジメント」「計測制御Ⅱ」が続いていた。

- H28の「M」では、3指標ともに「インターンシップ」がトップであった。次いで、「機械工学演習Ⅲ」「エンジニアリングマネジメント」「計測制御Ⅱ」が上位となっており、「卒業研究」「材料力学Ⅰ」「材料力学Ⅱ」が続いていた。
- H27には「興味」と「満足度」で「デザインメソッドⅠ」がトップであったが、H28には「デザインメソッドⅡ」が「満足度」で5位であった。その他では「エンジニアリングマネジメント」「インターンシップ」が上位であり、H28と同様に高い評価であった。

「数理」では、「数理統計A」「応用数学Ⅰ」「応用数学Ⅱ」「微分積分Ⅱ」が上位を占めていた。

- H28の「数理」では、「数理統計A」「応用数学Ⅰ」「応用数学Ⅱ」「微分積分Ⅱ」が上位を占めていた。また、「積極性」が高かった「線形代数Ⅰ」「基礎数学Ⅱ」の「興味」「満足度」も低くはなかった。
- H27は3指標ともに「基礎数学Ⅱ」がトップであったが、H28でも「積極性」「満足度」が5位になるなど、評価は低くなかった。また、「微分積分Ⅱ」「数理統計」の評価も継続的に高かった。

「G・J」では「インターンシップ」「デザインメソッドⅡ」の評価が高く、「インターンシップ」は前回も高い評価であった。

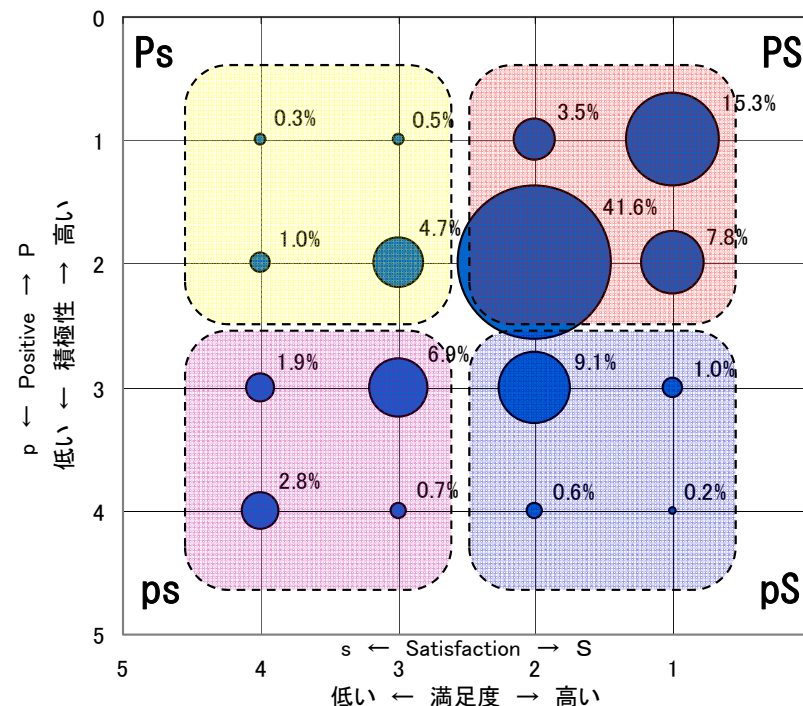
- 「G・J」のH28は「興味」「積極性」で「インターンシップ」がトップ、「満足度」では「デザインメソッドⅡ」がトップであった。その他では「コンピュータリテラシーⅠ」「英語討議技法」「エンジニアリングマネジメント」の評価も高かった。
- H27でも「インターンシップ」が「積極性」「満足度」とともに1位で、「興味」も高かった。同様に「英語討議技法」の評価も高く、この2科目の評価の高さはH28と共通していた。一方、H27に高評価であった「プログラミング基礎」の評価はそれほど高くなかった。

<7> 達成度に関して

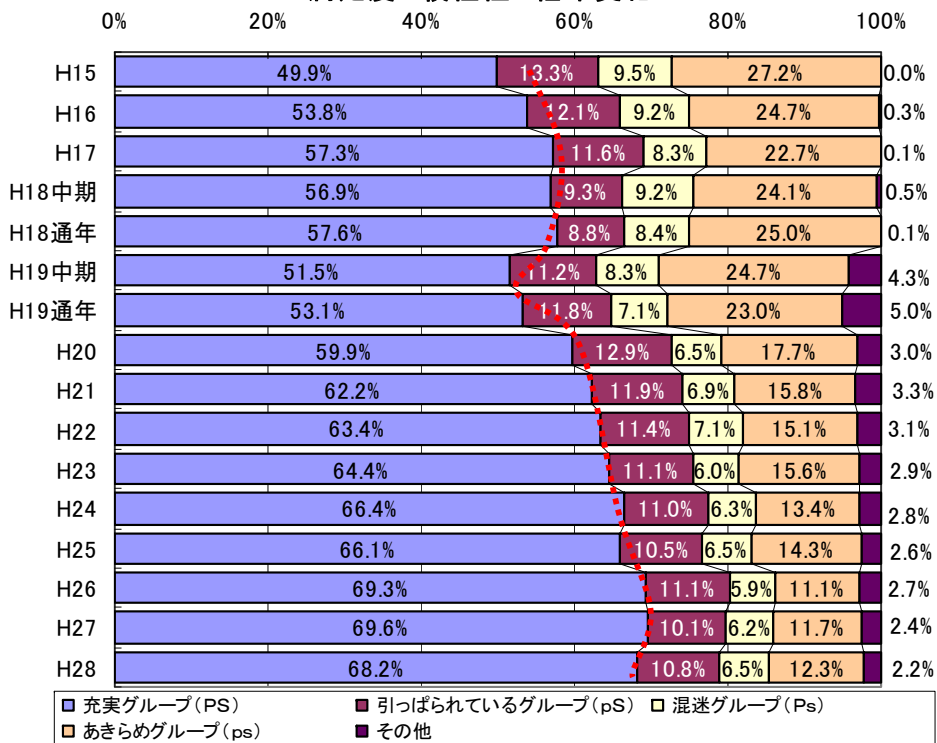
1) 全体傾向

- 「積極性」と「満足度」によるPS指標では、積極性、満足度ともに肯定的である「PS・充実グループ」が68.2%と最も多かった。
- 「PS・充実グループ」は4つの層に分かれるが、「まあ積極的」かつ「まあ満足」という層が41.6%であり、「積極的」かつ「満足」という非常に良い状態の学生は15.3%であった。
- 上記以外では「pS・引っぱられているグループ」が10.8%、「Ps・混迷グループ」が6.5%、「ps・あきらめグループ」が12.3%となっていた。
- 経年変化では、「PS・充実グループ」は前回は69.6%で過去最高であったが、今回は1.4ポイント低下してH26からほぼ横這い状態となっていた。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は前回より0.6ポイント増加していたが、こちらもH26からほぼ横這いになっている。

■ 満足度と積極性の関係



■ 満足度と積極性 経年変化

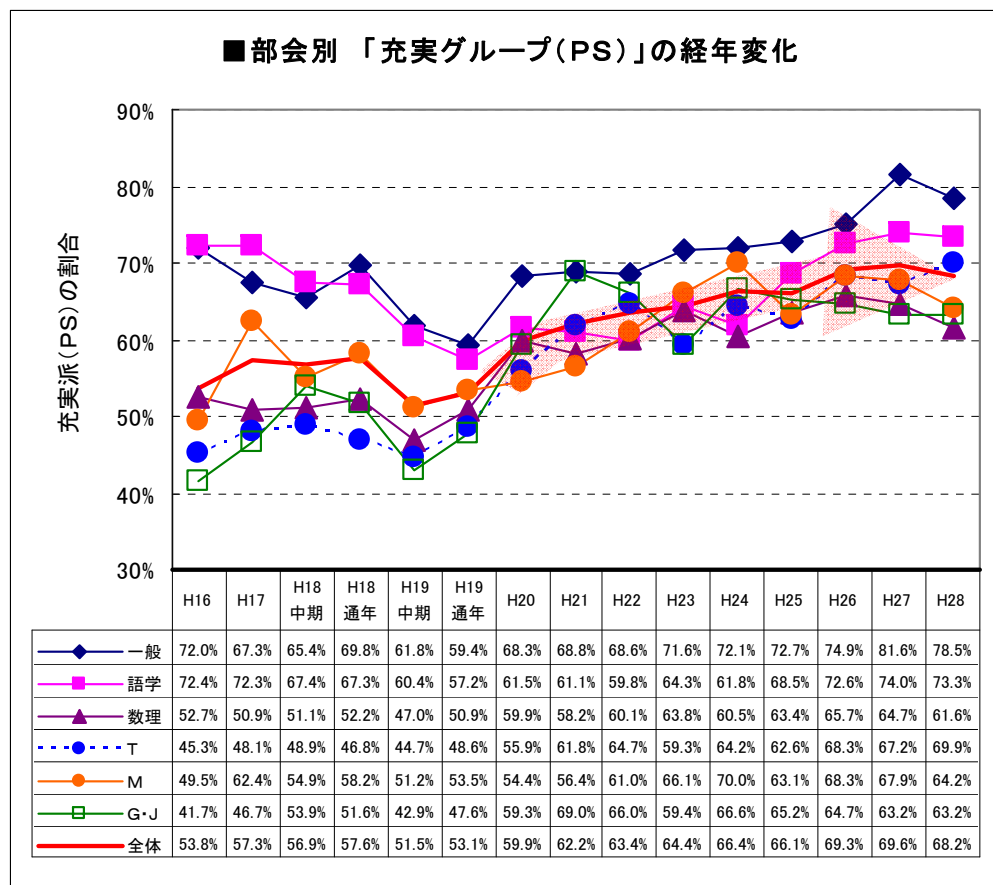
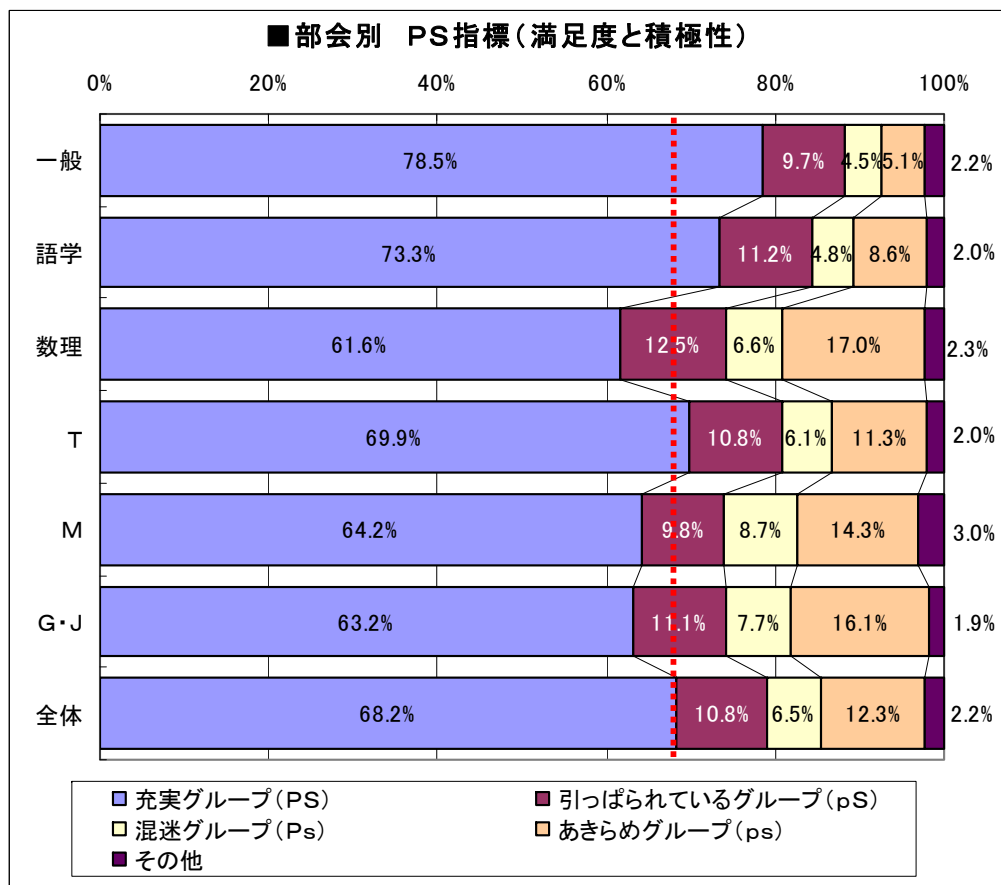


■ PS指標の内訳

記号	指標	想像される特性	領域の合計
PS (充実グループ)	● 積極性も満足度も高い	● 授業に積極的に取り組み、結果として満足度も高い。 ● 最も良い状態にあり、達成度も高いと想像できる。	68.2%
pS (引っぱられているグループ)	● 積極性は低い ● 満足度は高い	● それほど頑張らなかつたが、満足している。周囲、教員に引っぱられてうまくいっている。 ● 求めるレベルが低いことも考えられるが、授業が期待以上というケースも考えられる。	10.8%
Ps (混迷グループ)	● 積極性は高い ● 満足度は低い	● 目標が高すぎたことも考えられるが、授業内容が期待はずれ。 ● 最も注意すべき状態であり、この層の満足度を上げることが最優先。	6.5%
ps (あきらめグループ)	● 積極性も満足度も低い	● 授業に期待がなく積極性が低く満足度も低い。 ● まず、授業に取り組む態度を見直させることが必要。	12.3%

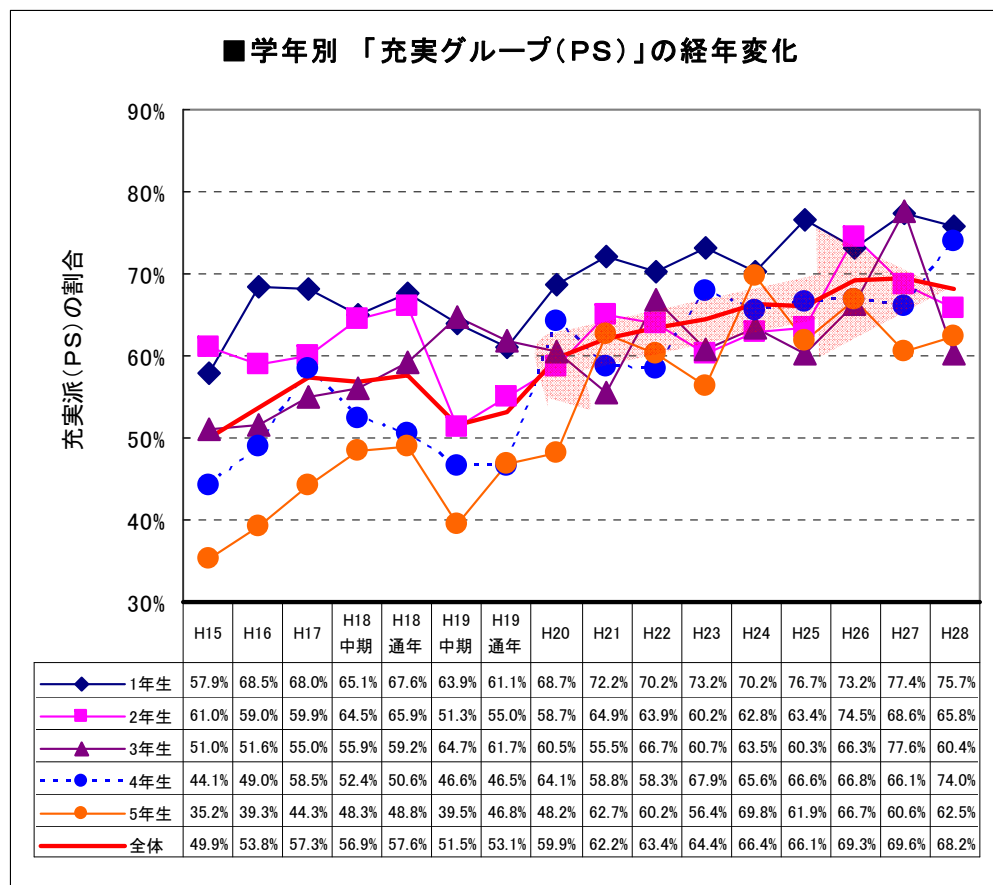
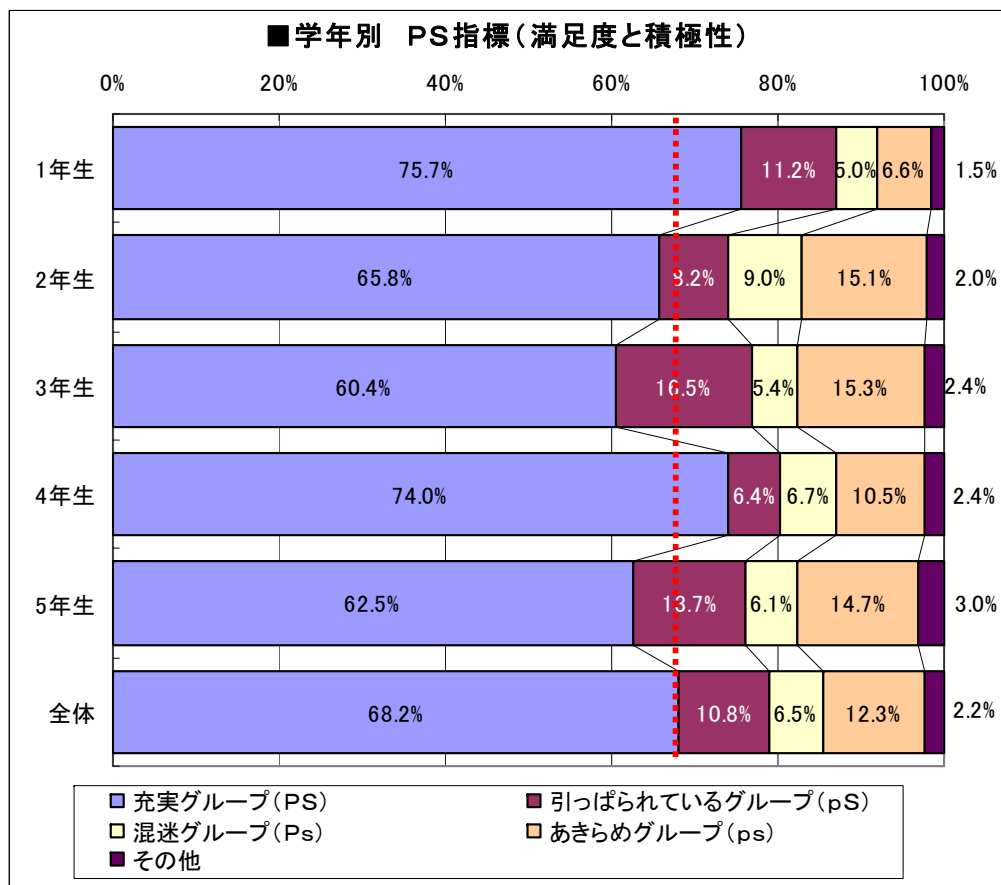
2)部会別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」を部会別に比較すると、「一般」が78.5%と最も多く、次いで、「語学」が73.3%、「T」が69.9%、「M」が64.2%、「G・J」が63.2%と続き、最も少ないのは「数理」の61.6%であり、「一般」と「数理」の差は16.9ポイントであった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」は「数理」で17.0%、「G・J」で16.1%とやや多く、最も少ないのは「一般」の5.1%であった。
- 「PS・充実グループ」の割合の経年変化を見ると、「T」だけが前回は上回って過去最高となっており、「G・J」と「語学」はほぼ横這いであった。
- 「一般」は過去最高であった前回は下回ったものの、これまでで2番目の多さとなっており、「M」と「数理」も前回は下回った。



3) 学年別 PS指標比較

- 「PS・充実グループ」を学年別に比較したところ、「1年生」が75.7%で最も多く、「4年生」が74.0%と続き、この2学年では7割を越えていた。他の3学年の差は小さく、「2年生」が65.8%、「5年生」が62.5%、「3年生」が60.4%となっており、「1年生」と「3年生」の差は15.3ポイントであった。
- 一方、「ps・あきらめグループ」の割合は「3年生」が15.3%、「2年生」が15.1%、「5年生」が14.7%となっており、「PS・充実グループ」が少ない3学年は近い結果となっていた。そして、「1年生」が6.6%で最も少なかった。
- 「PS・充実グループ」の経年変化では、「3年生」の前回からの低下が非常に大きかった。そして、「1年生」「2年生」も前回は下回った。一方、「4年生」は前回は大きく上回って過去最高となり、「5年生」も前回は上回る結果となっていた。



<8> 調査のまとめ

1) 全体傾向、部会別比較、学年別比較

	分野ごとの意見	まとめ
全体傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味を持って授業を受けた」という意見が80.6%で、前回は1.2ポイント下回った。 □ 自宅での学習時間はここ3年間、ほぼ横這いであったが、「しなかった」という回答がH23以降で最も多くなっていた。 □ 「授業に積極的に取り組んだ」という意見は75.4%であり、わずかではあるが前回、前々回を下回っていた。 □ 「授業に満足」だけを見ると過去最高であるが、肯定的意見の合計は前回は下回って79.6%となり過去3番目の高さであった。 □ 授業評価では「教科書、教材、資料など」の評価が高く、全項目で肯定的な意見が多く、大きな課題は見られなかった。 □ 「教科書、教材、資料など」の評価は継続的に高いが、「話し方や説明」「理解しやすい工夫」「黒板やビデオ・OHP」は低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「授業に満足している」の割合は前回より低下して79.6%で、過去3番目の高さであった。 ▶ 授業に対する「興味」と「積極性」は、いずれも前回はわずかに下回った。 ▶ 「学習時間」は横這いであったが、「しなかった」の割合がH23以降で最高となった。 ▶ 「教科書、教材、資料など」の評価は継続的に高く、大きな課題は見られなかった。
部会別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」「語学」「T」が高く、「満足度」が低い「M」「G・J」「数理」も75%は満足と答えていた。 □ 「宿題、予習、復習時間」は「数理」と「T」が長く、「一般」「語学」「G・J」では「学習しなかった」の割合が多かった。 □ 「興味」「積極性」「満足度」共にH26から横這い状態が続いていた。3指標共に「T」が過去最高で、「M」と「数理」の低下が大きかった。 □ 「一般」と「語学」は授業の評価が高く、「M」「G・J」が低めであった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」「積極性」「満足度」はいずれも「一般」「語学」「T」が高かった。 ▶ 「学習時間」は「数理」「T」が長く、「一般」「語学」「G・J」では「しなかった」が多かった。 ▶ 「興味」「積極性」「満足度」共に「T」が過去最高で、「M」と「数理」の低下が大きかった。
学年別傾向	<ul style="list-style-type: none"> □ 「興味」と「満足度」は「1年生」、「積極性」は「4年生」が最も高く、3指標共に、この2学年が上位を占めていた。 □ 「4年生」「5年生」の勉強時間が長く、「1年生」～「3年生」が短めであった。そして、「2年生」と「4年生」で「しなかった」がやや多かった。 □ 「4年生」は3指標共に過去最高となり、その反動として「3年生」は前回は大きく下回っていた。 □ 「1年生」は全体的に授業の内容評価が高く、「2年生」「4年生」「5年生」が低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「興味」と「満足度」は「1年生」、「積極性」は「4年生」が最も高く、この2学年が上位を占めていた。 ▶ 「4年生」「5年生」の勉強時間が長く、「2年生」と「4年生」で「しなかった」が多かった。 ▶ 授業の評価は「1年生」が高く、「2年生」「4年生」「5年生」が低かった。

平成28年度

KTC授業アンケート調査結果[報告書]

- 発行日 平成29年6月12日
- 発行者 金沢工業高等専門学校
- 調査票設計・分析 有限会社 アイ・ポイント
- 編集 金沢工業大学企画部CS室

無断複製厳禁

再生紙を使用しています